



清俗紀聞

第四

| | | | |
|----|--------|--------|--------|
| 御秩 | 卷之六 生誕 | 卷之七 冠禮 | 卷之八 婚禮 |
|----|--------|--------|--------|



あつはらみ洗ひ口中指代入て瘀血等を洗ひ出し身解をよく拭ひ
綿あつはらみ指切をぬくはくみ上ら襦袢ぬくはくみの懐中に横みして抱
き免産母を産屋か一か産室 至らむ産室の常の床に上りた右襦子代敷
多積か産中身解の動ぬ中か安坐せし免多く十日或は七日経て平
外せぬ血暈か多れは五日経て平外せぬもあつ産室か坐して早速
糯米の粥を吃せむむをいらぬみ多分食せぬか母時をいげ食せ
しむ糯米粥と多く一度あつて其後飯を食せ三十日の内の魚肉油物を
忌五七日の内姜辛酸味戒忌又七日経て酸味を少しば吃せむ七日乃
向ハ砂糖汁ぬく益母草代茶飲し免後瘀血を去る血暈を去る
湯茶を用ひ産室か居る内老女阿媽の敷昼夜附添産婦の頭をか
き解を片とぬぬ中且風寒を受ぬ中かかつけ家内も物静め

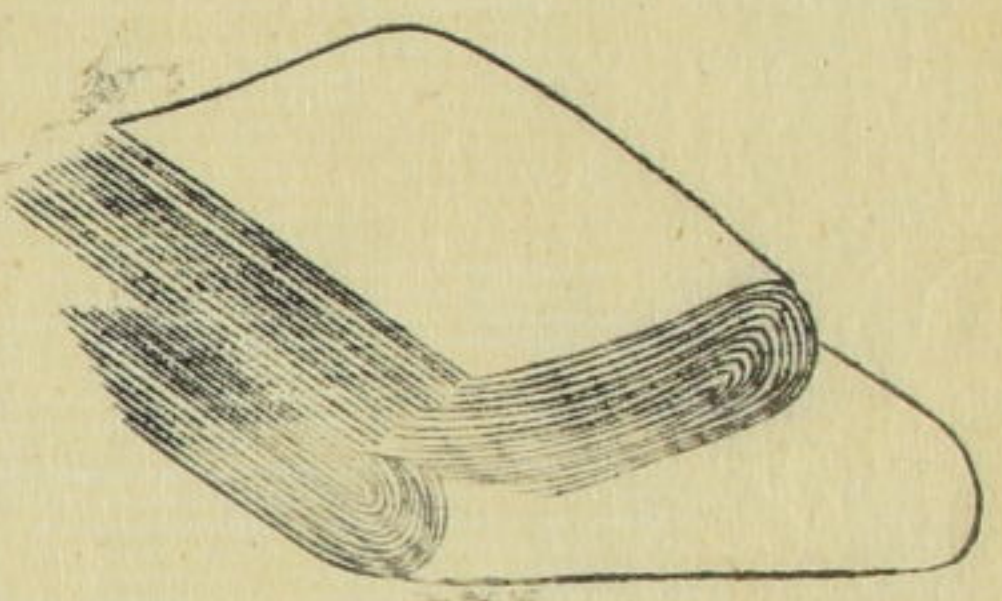
高きあつび物音の響き多代茶先随分産婦の氣代静め安寝し保
胎すか中しに掛かむ ○胎衣の少磁器か入て蓋を覆ひよく包く
居宅の内潔淨し空気を深き三四尺程か掘り埋し並永遠動さぬ
かみつはあり埋む所の方位兼み流物等の事か背時古儀を文入
埋ふ説あり高時好く用ひ ○嬰兒洗すは其耳湯か食塩を
すこ入るか洗す少さあつわみ入る洗す血汚を去すかみあはら
みあつはらみ畢して臍粉を細末かして熱氣に擦並襦袢かむ
臍帯の切く切尺指かき洗ひ包み胎か當り外を指切かき美又六
日経て指切代解く乾不乾を見て乾たはばれつら指と胎の肉入る其
時指切をす寸 胎帯を切ぬ長きかす後残し切か若長か
多れかかて後障あり経き時ハ風濕と云
○嬰兒乳を付ふ事ハ四時を待く乳汁を呑む 一晝夜あつて其あつら



生誕

三

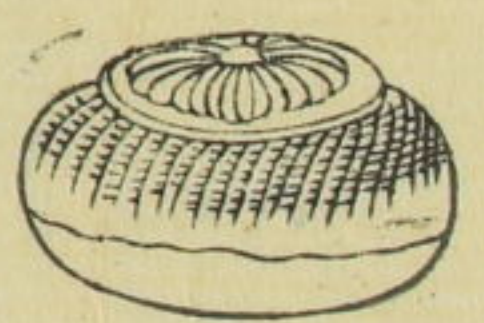
草紙
くさし



襦袢
むつぎ



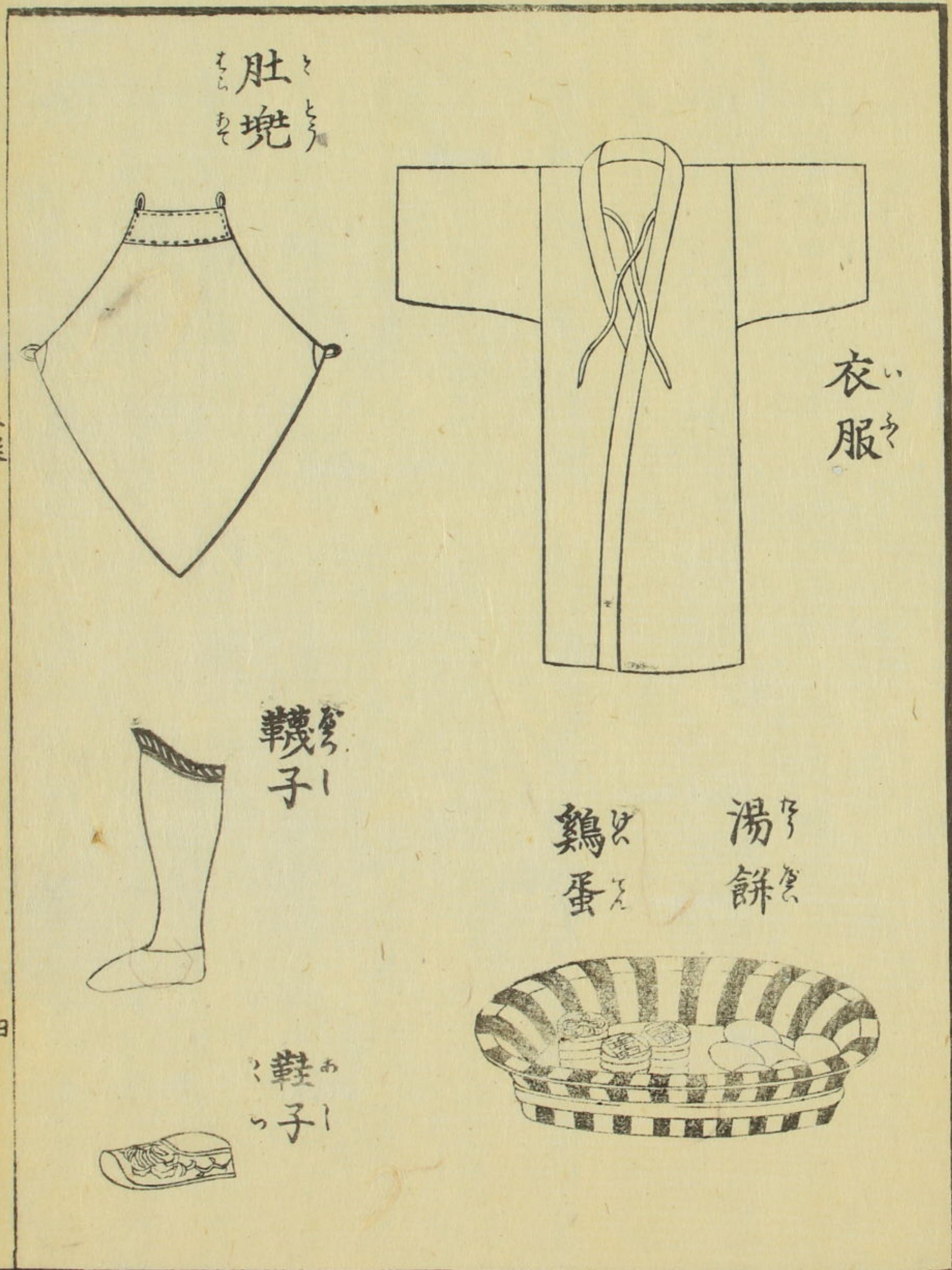
胎衣器
たいいぎ



肚帯
はらおび



牛黄黄連湯ニワウワンワンレンタンなり成のま吞のませあり以のま葡萄大棗ブドウダイソウを搗碎ウシして羹ケイし吞のまむ
 胎毒タイドク去クる胎毒タイドク少シくも牛黄ニワウワンを用ヨウひす乳チの母ハハの乳汁チ出デし乳チをりら
 以ヨウ美ミ出デす以ヨウ親族チンソクの婦女フメノメ此コノ乳チを用ヨウむ○三日ニヒト月ツキ或ハ又マタ日ヒ月ツキ小コ麦マキの粉コを以ヨウて
 餅ホウを以ヨウて祝イハヒひす是コノを湯餅會ヌンホウカイと云イハふ一ヒト三サン朝アサ此コノ日ヒ男子オトコ中ナカを以ヨウて名ナを以ヨウて
 男子オトコの名ナを以ヨウて阿福阿壽アホアス官クワン哥カを以ヨウて吉キ利リ字ジ眼エンを用ヨウむ
 文字モノジと云イハふ女メ々々惣ソウして幼名コナメ氏シ付ツケは十四ジュウシヨウ六ロク歳サイ也ナリと云イハふ詩シ作サクを以ヨウて或ハと
 書カキを以ヨウてよヨくも女メの字ジを命イナメと云イハふ其ソノ外ソノトモに幼コく一ヒト娘ニヤウ二ニ娘ニヤウ大ダイ
 姐シメ二ニ姐シメと云イハふ惣ソウ順ジュンを一ヒト娘ニヤウ又マタ大ダイ姐シメと云イハふ二ニ女メ二ニ娘ニヤウと云イハふ娘ニヤウの婦メ女メを以ヨウて名ナを以ヨウて稱ナヅケひ
 嫁カハシして後ノチ々々卒ソツ家カの姓セイ代ダイ唱ナヅケふた人ヒトハ王オウ氏シを以ヨウて六ロク王オウ娘ニヤウと稱ナヅケひ張チヤウ紙シ也ナリ
 張チヤウ娘ニヤウを稱ナヅケひ餘ヨリ々々乞イハふ準ジュン一ヒト生シヤウ名ナ字ジ代ダイ用ヨウひぬと云イハふ此コノ湯餅會ヌンホウカイ
 の日ヒ々々嬰オウ兒ニみ湯浴タウヨクを以ヨウて冬フユ寒サムイの甚シハ袖スエのほノれぬるも衣ウエ履ハキ履ハキ者モノを以ヨウて親チン友トモ



生誕

四

み業肉にて祝儀此酒宴成りす親友より鶏鴨の卵を赤く染三ツ或は五ツ折ふま教ふるも卵形くびみ餅成餅ふ産消衣裾等も親友

三十日同成満月一ハ弥月此日男女ともに胎髪を剃り湯浴せし先

壽星菩薩壽星菩薩ハ一ツの寺院に安糸結せし先家内と客成結

祝宴をす胎髪を剃りし先み業茶成口中に細嚼す細

未みして小児の頭み搦りし先杏仁薄荷を用かえあて胎髪を

残らば押かて先み色の糸成りし先信比並小児の寝床に帳内掛並

百日目み又客成請いし先を好き満月百日祝ひの節客方より

鞋靴肚兜衣服等成務ふ初て親類朋友より魚肉或は鞋靴

等此品成送る祝儀此品を目錄を用ひす

○周歲一ハ月嬰兒の長成を考ふて廳上み卓成設け上み毛襪を

敷筆墨書籍金銀筆盤等成形し先嬰兒み是を取らむむ事

を取らむ文章に達し書籍成れを學問成好むし先主成を教へ

儒學成刻ゆか金銀を赤盤を取らむ高堂成さしむ類のよむ此日

親友を請し祝宴成形親友よりこれらもとの満月の時みあて

胎髪を剃り別をわき又けんのくぶ類の隙頭れ中程かみ角

の中みまきし残し並とあて或は口み茶まで残らば別をては茶の

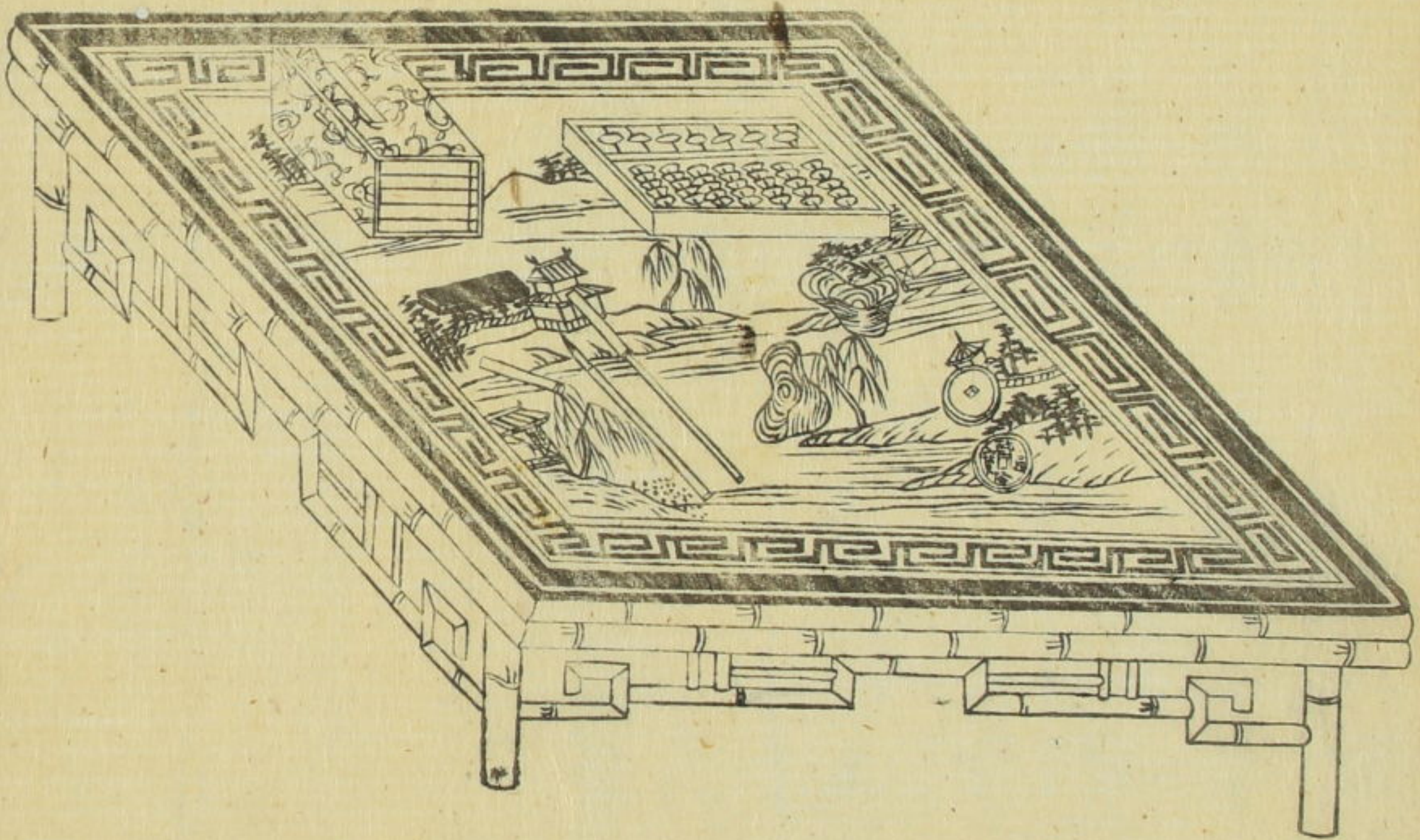
先後とも髪を残し端角成浴せあてし先も嬰兒を花帽子を裁

く女子と類のけり又らけんのくみ少しけ髪成残し十茶経り

かみて披髪とて類隙の髪は毛成長さ六六身位み切類ふらばか

切壳の中みて包搭額類中の加を裁く十三茶みかちを髪を残らば

周歲拿周圖



卷の包頭を用ひ包頭と前包塔りり大所 雲髻成りけ金銀珠玉などの簪を
 用ひ髻を人々呼ぶあつて等かゞば香油を用ひて髪の色を潤を老年母
 ねむひく冬寒れ時と法然中より小帽子成用ひ家とあり惣して男女大
 小誕生して周歲まで祝ひを好し其後の年々誕生日祝ひをたゞ十
 歳お加へ誕生日祝ひ精意を以て其後の十年目毎誕生日祝
 宴を好む ○ 女子は初く七八歳に於て纏脚布足を包む を好む是れ
 先を固く巻くははるゝ足の大くかゝぬやうかすか幸身一かり好む
 七八歳已への高き小外へ出で遠路へ行くは初く轎を用ひ歩行せしめ
 必近所歩行の節々婢の顔は足より手成推かむ下賤小戸の足巻を
 事も好く歩行自由を好む 此女子は足を包む事何止の代り
 嬰児の枕と外を木綿あはく遠く内おと葉茶あはく八菊花を清涼の

物を入用也代赤糸小豆等入小児の腰或押入等これ事なり小児を都
 多周歳の頃より横抱くは多し抱く事を忌む又生れて又七日
 後これを多く下に褥子を鋪安寝せむ ○ 穂波の謝儀ハ銀三拾目又
 拾目或ハ白目身分應として等かハ大戸の衣振服足等成送るも
 都て産の時醫師成抱取服系す事なり産前産後とも此病
 多しハ醫師を用い此若血暈あふ或ハ難産等ゆゑ若し時
 醫師を招くや血暈發して醫師明かあさる時と若しハ此の物
 を火中焼て磁器中醋を入産婦の鼻中よけて焼たふ石炭物の類を
 醋中入嗅せし醒覺せしむ又産後胎中童便一盞 天目一盞 用ひ飲
 せしむ血暈治す ○ 産繩の類ありハ天児ハ親守れありハ
 暮同等事なり ○ 昔附ハ襪襪を男子ハ父の舊衣女子ハ母の舊

雲髻



簪



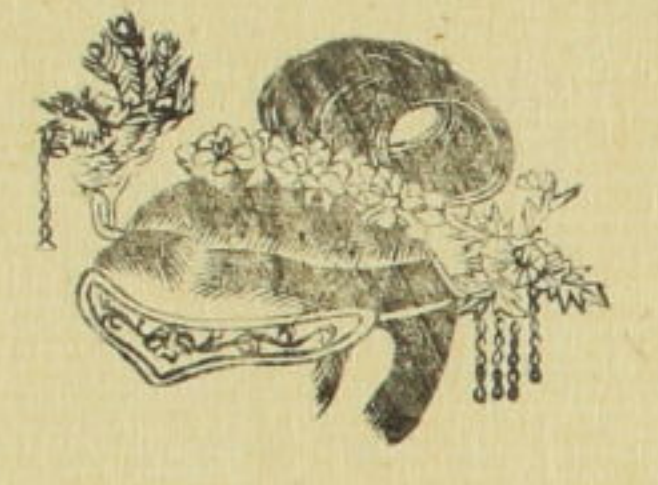
筭



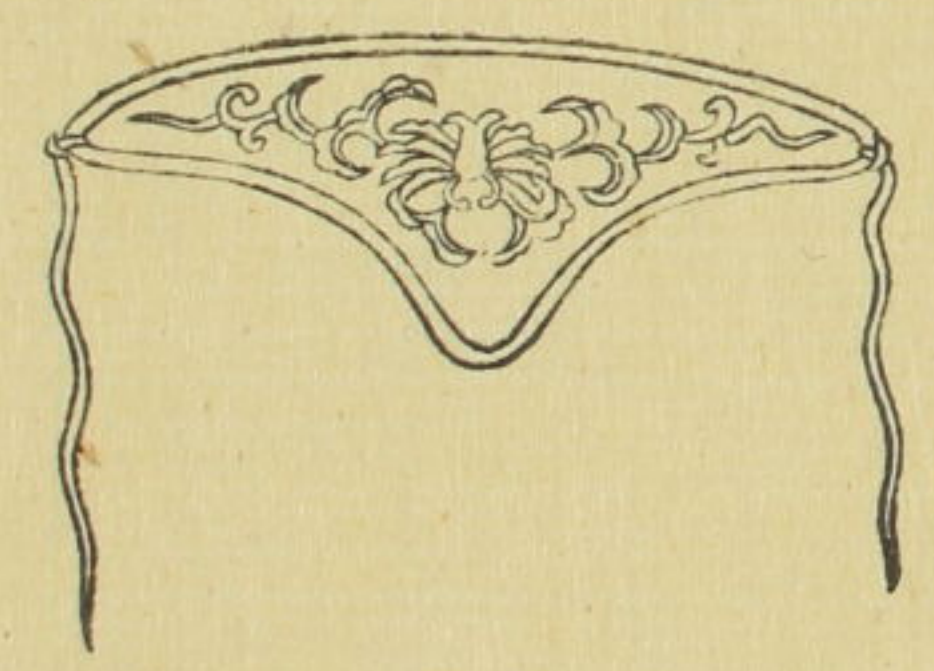
全



戴包頭圖



包頭



清俗紀聞卷之六

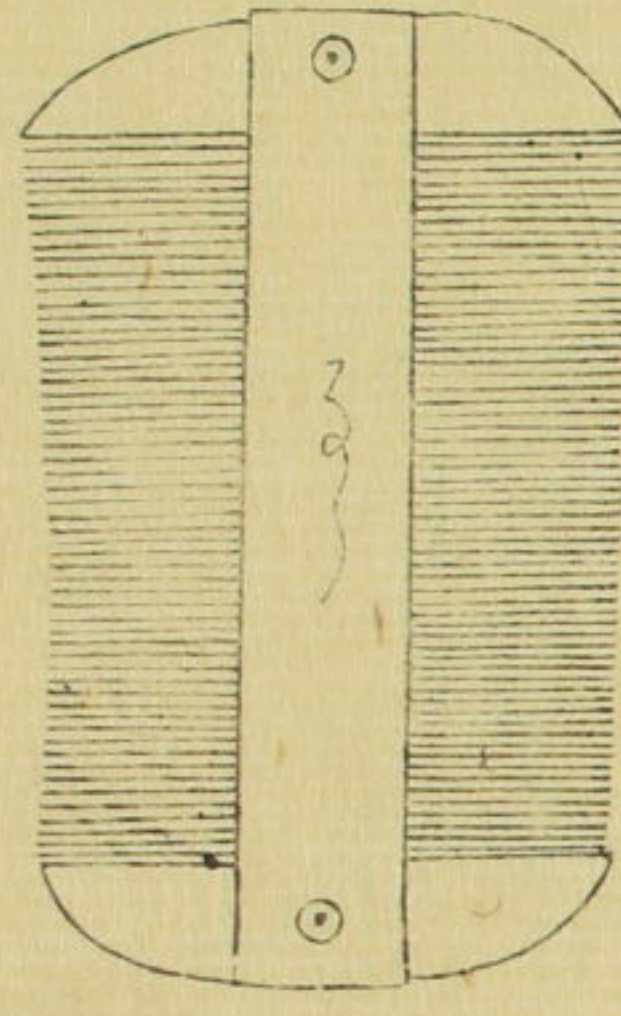
清俗紀聞卷之七

冠禮

○今清の代冠禮は古式絶く傳ふ事形一男子歳歳少て加冠せしむ
 定免も勿く十二日某の内恰好見あり易え服を以て賀する事も亦
 女子も歳歳少く筭すやつ式也一十歳以上にて許嫁すは直子
 上筭は此日祝賀あふ上筭を祝はるは許嫁成祝すふんや
 酒宴を設く○男子の三日某より頭の巾箱み髪を生し総角み借ひ
 あらひ髪を束方へまけし総角を二つみ借ひあかもあらし髪を束
 刺し花帽を戴き十二日某みなら天徳月徳等れ吉日成るる元
 服以○元振れ而る廳堂あらひの房中ゆく刺髪人を呼ぶ勢僕み
 命して面盆み湯成ゆせ其より椅子に坐し刺髪人湯みく頭

冠禮

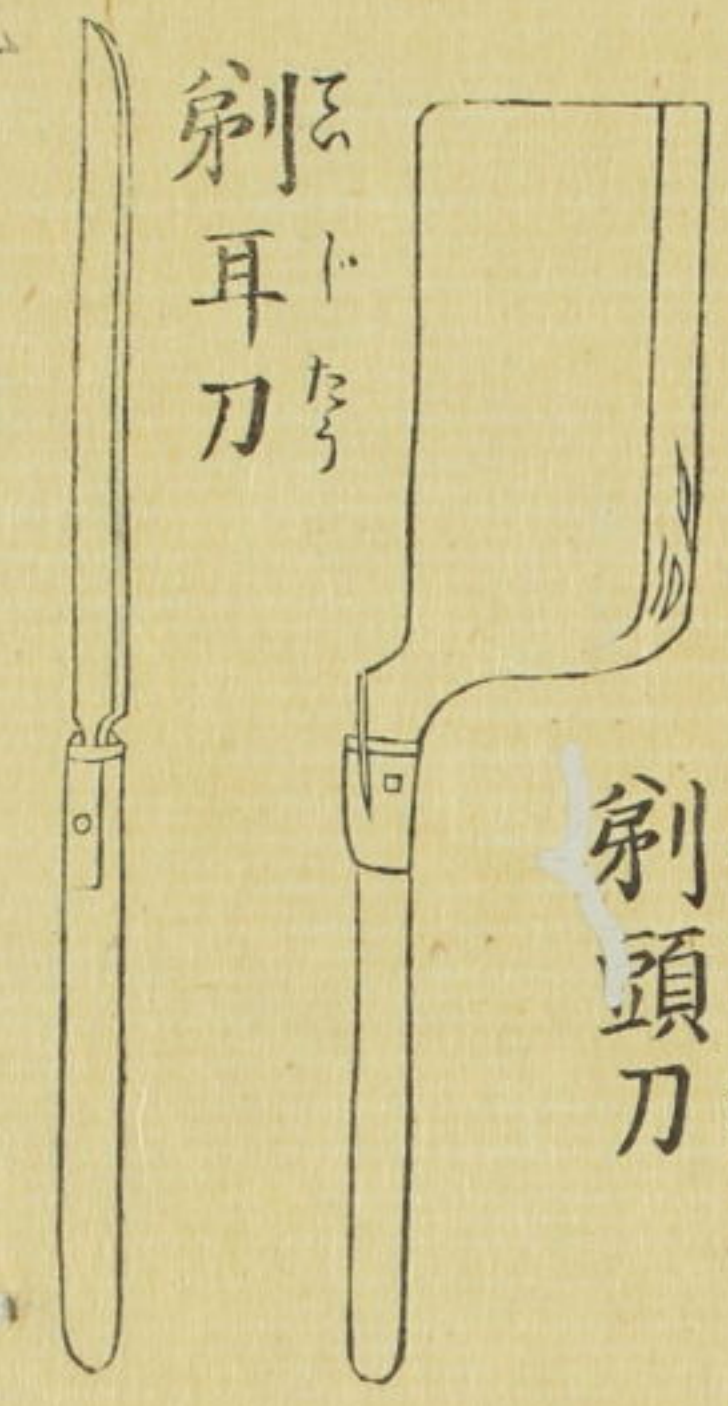
竹篋



木梳

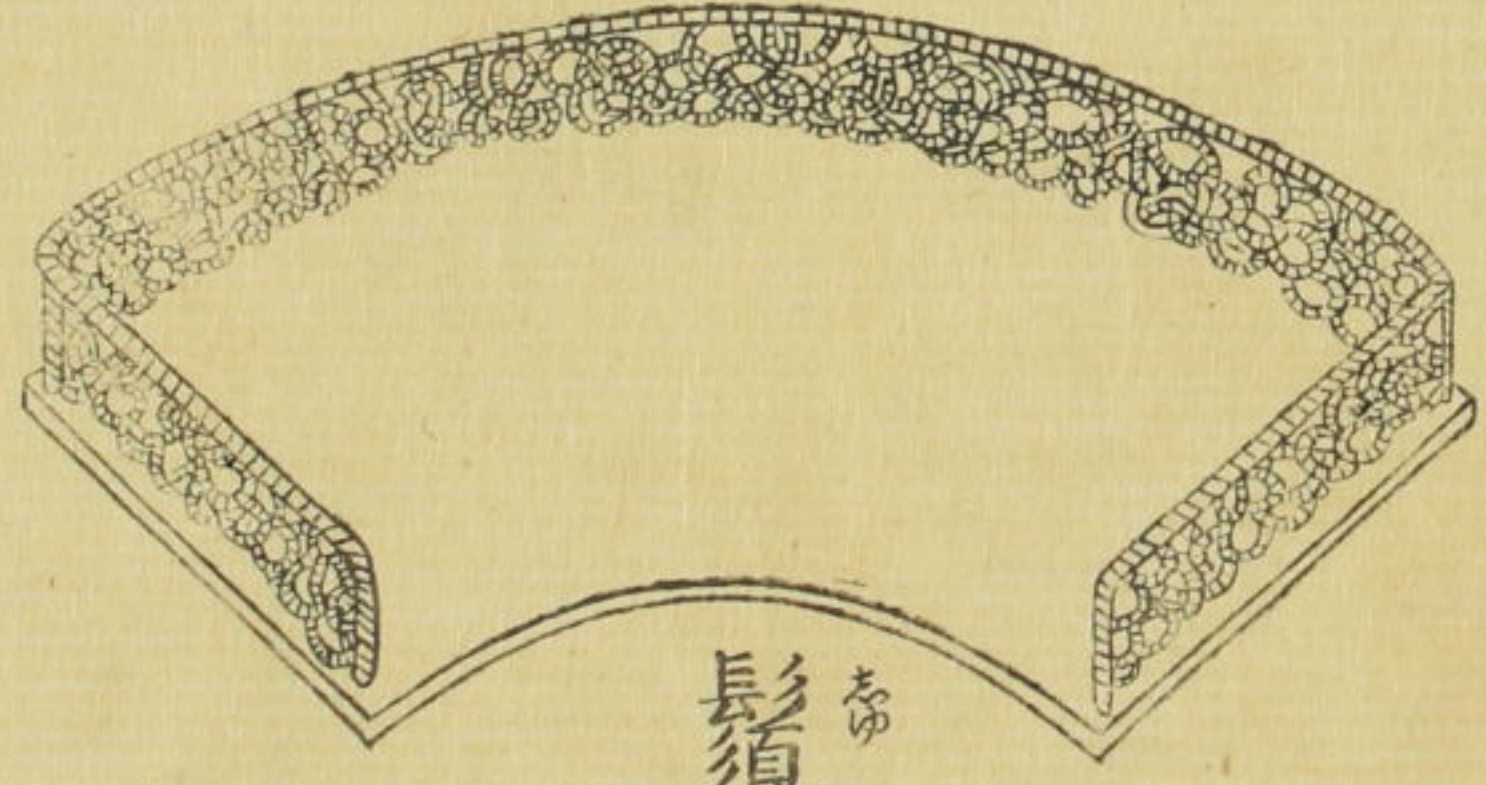
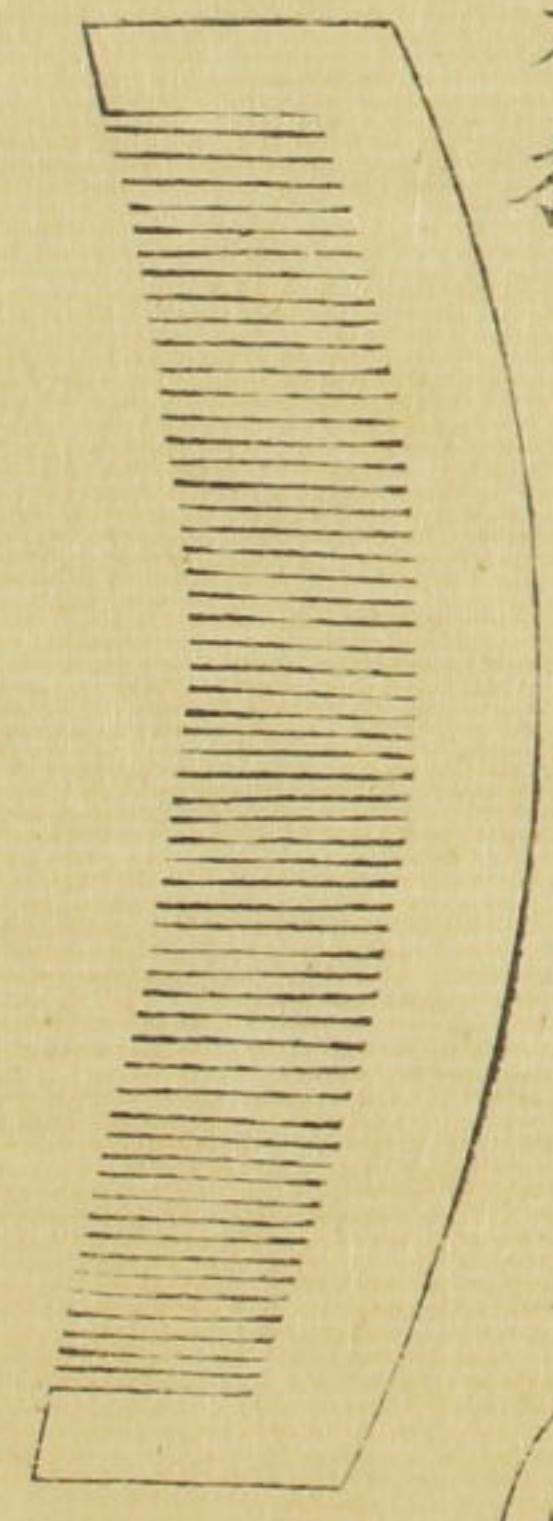


剃耳刀



剃頭刀

木梳



髮須盤

斜掠

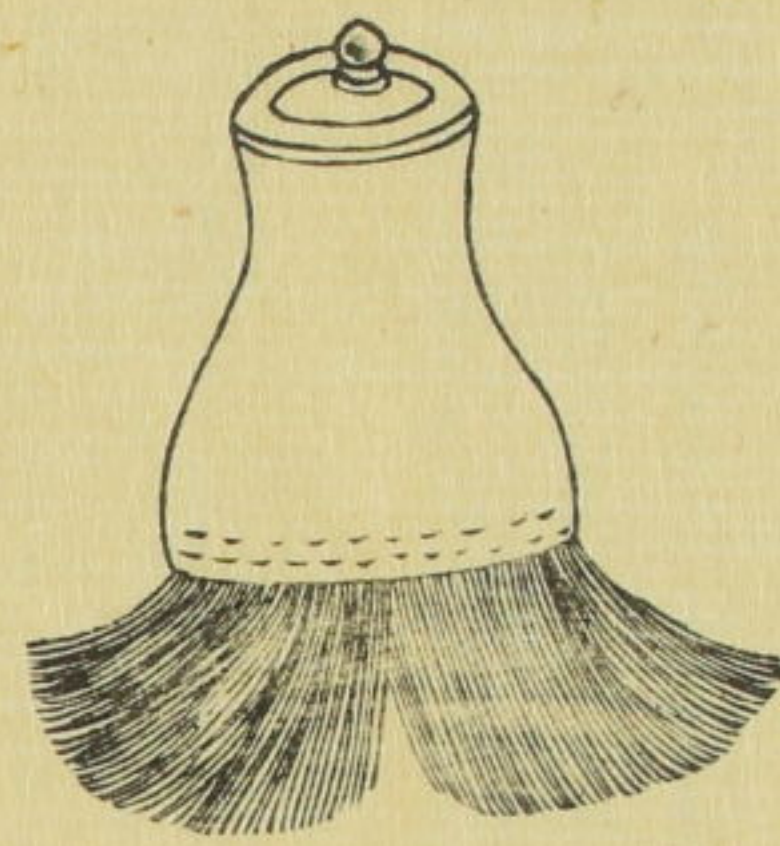
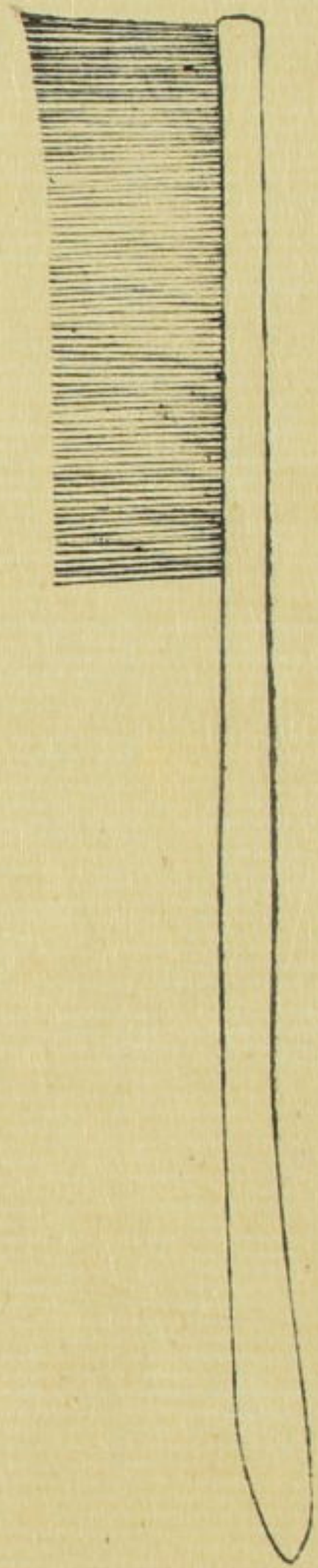


冠禮

二

を志免し既の若中に髪洗を陸(其)餘と残らば剃りて若くは髪を木
 梳を以て梳し竹篋に垢洗を能く掃入るに辨分け打立髪を辯子と
 不(即法花珠林)髪先を江波黄の糸に留帽子を首に二十葉余に
 周羅髪を束ねし
 も好むは花色黒等此糸成用の帽子を左省の時ハ睡帽を着し外出此
 節ハ大帽子残着は元振の目にて親形成招清く後賀字此事れ
 都く剃髪人とも下賤の者ゆ剃髪梳既を成済世とす一人主人
 の僕儀ハ六十五文其附くは元振此節初く髪を束ねし百文も若く小児の内ハ
 剃髪人を呼ぶ及は美ら船内の奴婢ハ類命命と剃らむ九ヶ月あ三度経
 是剃梳すの月とも剃頭店ある家内ハ部手をお三人程も抱へ下賤の者
 行く剃梳せむは十五文十六文も遣は一定した事なり

抵子



油刷

○女子の顔のあり或るぐんのくほさか少一胎髪を残し口又菜を
 髪残し包ひ立又足先を指めく或びく包むと足代をさぬ為
 ひり先を纏足さふ十菜頂を披髪とて顔際髪を毛を又六歩
 くらわ水切に顔かきむらふ一包搭とて顔巾の中あらし物を裁
 き十二菜にかりて髪残くは昔の菜油を用ひく髪の色を潤し
 雲髪は包ひ立とて髪包のさく物を用ひ許嫁すは聘納を
 後吉日代えく顔髪生際眉毛等代利付并をさくむ先を上并とて
 親類朋友等残請して酒宴を設け祝賀す女の髪ハ婢命して梳らむ
 男子三回菜にかりて自ら食事を承ふ承ふあは母の子えかきま
 合食事の時右の手に箸代さう方の手小碗を持し合はる事を教
 朝夕二食を隔りて櫻りに合手か事を許さば父を請れば後の道親

類等此來分節作揖揖ハ舞を組舞を先又手舞の目一舞を組する等此作法長者ゆつて兄弟と毎々以睦むる外道を行く又此來より此
 士ら勿論農工商とて亦讀書寫字を習せ七八果みければ身成たさそ
 行ひを以て先祖代大切み一能家代真に道成ひいきせ身上編育られ
 石先生を宿評し請ふ至る貧窮者ら義學みはひ中通る事
 學館みわると詩書の義をわたり詩成賦一文を作ふ事を習ふ事
 進退應對の法式を専ら教導は若修也為行ひかたあはは
 ありひの叱り又と亦擲して戒し先正一再びする事を許さるゆと
 虚言成独射弓騎馬算盤等此事其人の好まると習ふは
 女子ら専ら母の手をとりあそぶ食事等の儀法成れゆか事男子に
 習ふ事形入六果みければ起居の行儀法を教へ櫻みはひつき

大や成のゆ先こを成るるかか成すゆ不に持事をかす果みも
 且繡花針工紡織の道を教導は六八歳後と多く縫匠を
 しては五ふ以唯賃包烟包等成後事をわもあ其軽みよつて衣
 扱の仕立をこもわたり母親繡花等此道を能せされ近隣の婦人
 を請ひあひの繡娘繡花を渡せかといふ類の人を呼ぶを習ふ又七八
 果の頃より女先生成煩しと寫字の勿論讀書詩作等を教ふ人も
 十二三果みもなれり閨門をわく人み見ゆか事を由らふは多く
 其部屋成樓上み扱へ門戸を構へ出入成歳みゆ年頃もなれば男女同
 席せは焚燒れ事其自然にまきく津文みおゆか事か

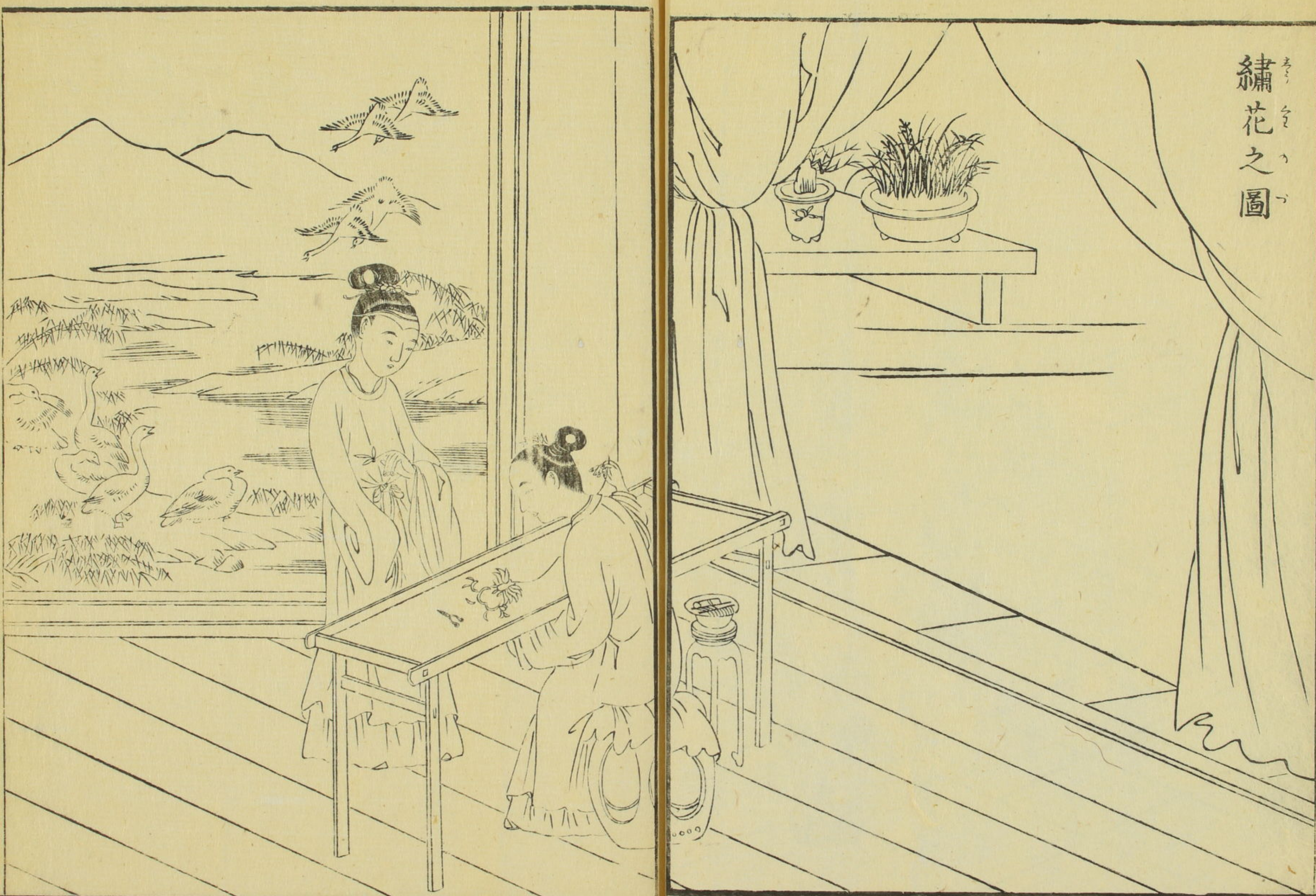
總角 花冠 瓣子



冠禮

五

繡花之圖



冠禮

六

清俗紀聞卷之七

清俗紀聞卷之八

婚禮

九男子二十歳餘まよもあまは其父兄婦成ふ娶らむ何方の處女を貰もらふとするめりま
 ちよくあ家承ついでたし心易こころやす人ひとを初はつて説親せつしんに媒人まいていの方かたみあると主人しゅじんみ面談めんだん後一
 たり中入なかつま止とどま主人しゅじん外とち廳ていみ出で立たて先生せんせい勞駕らうか有あ何見教なんけんと云い互たがひみ寒か温ぬをの
 主人しゅじんより請坐せいざと云い客有坐きやくありざと答こたへ辭儀じぎをうて椅子いすみかゝると令愛れいあい成なり何言なんげん
 の子息こしよは嫁よめみ貰もらひつた越某こゝろ成なりひく作つ伐ぎせむとい女家めいけの主人しゅじん兼かねて不
 成なりのこ小女こな箕箒みすみ備そなへみたりはちをきり辭退じたいの色いろあり媒人まいてい押おして入いるは
 けいふ父祖ふそ伯叔はくしやくみも相續さうぞく後一返答へんたうすはきとて媒成まいてい返答へんたうもいふ又また弟あに座ざみ
 又祖伯叔またそはくしやくを列ら度どみく領事りやうじ返答へんたうするめあり或あるは其その后ご主人しゅじん媒まいていのかゝる
 中なかつま返答へんたうする事こともあまは父祖ふそ伯叔はくしやく兄あにの内うちより應對おうたいせみたり又

婚禮

一

式家女翰書

式家男翰書

台命

謹遵

某某郡年家茶烟弟某姓名端肅頓首拜

全

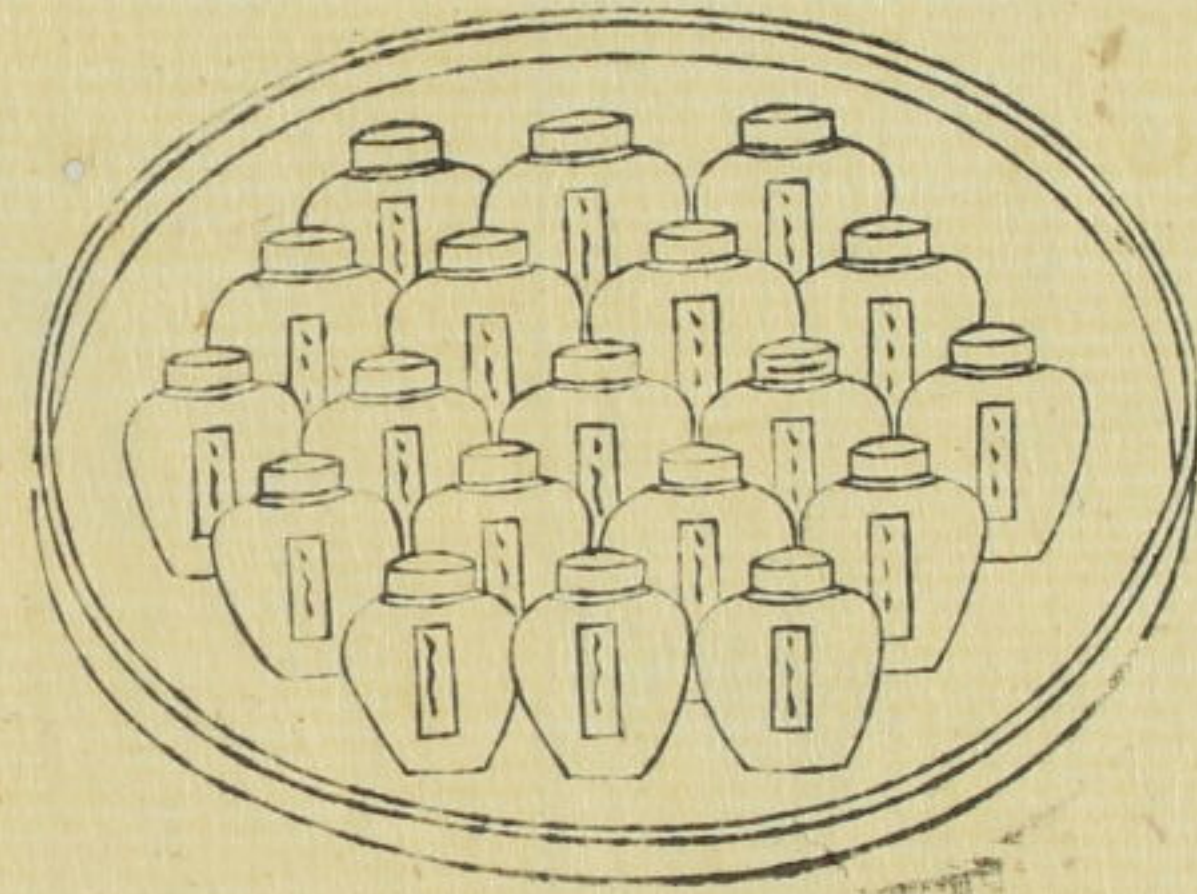
台允

恭求

某某郡年家茶烟弟某姓名端肅頓首拜

初訂姻禮帖式用梅紅全帖恭求台允四字用金鈔寫父或族長出名

茶授



多駕の龜みまゝく行来もあらぬ女の方にも有る人^{ユウジン}在麼^{ツイン}請教^{キヤウ}と申入^ハべ
取次の奴僕^{ねが}出く右の書翰^{シヤウ}兼紙^{シヤウ}請取^{シヤウ}
人^{ヒト}み遠^{とほ}く主人^{しゆじん}書翰^{シヤウ}兼紙^{シヤウ}受取^{うけと}り返^{かへ}す
使^{つか}の者^{もの}み遠^{とほ}く媒人^{まいてん}も主人^{しゆじん}對面^{たいめん}を

封筒正面式

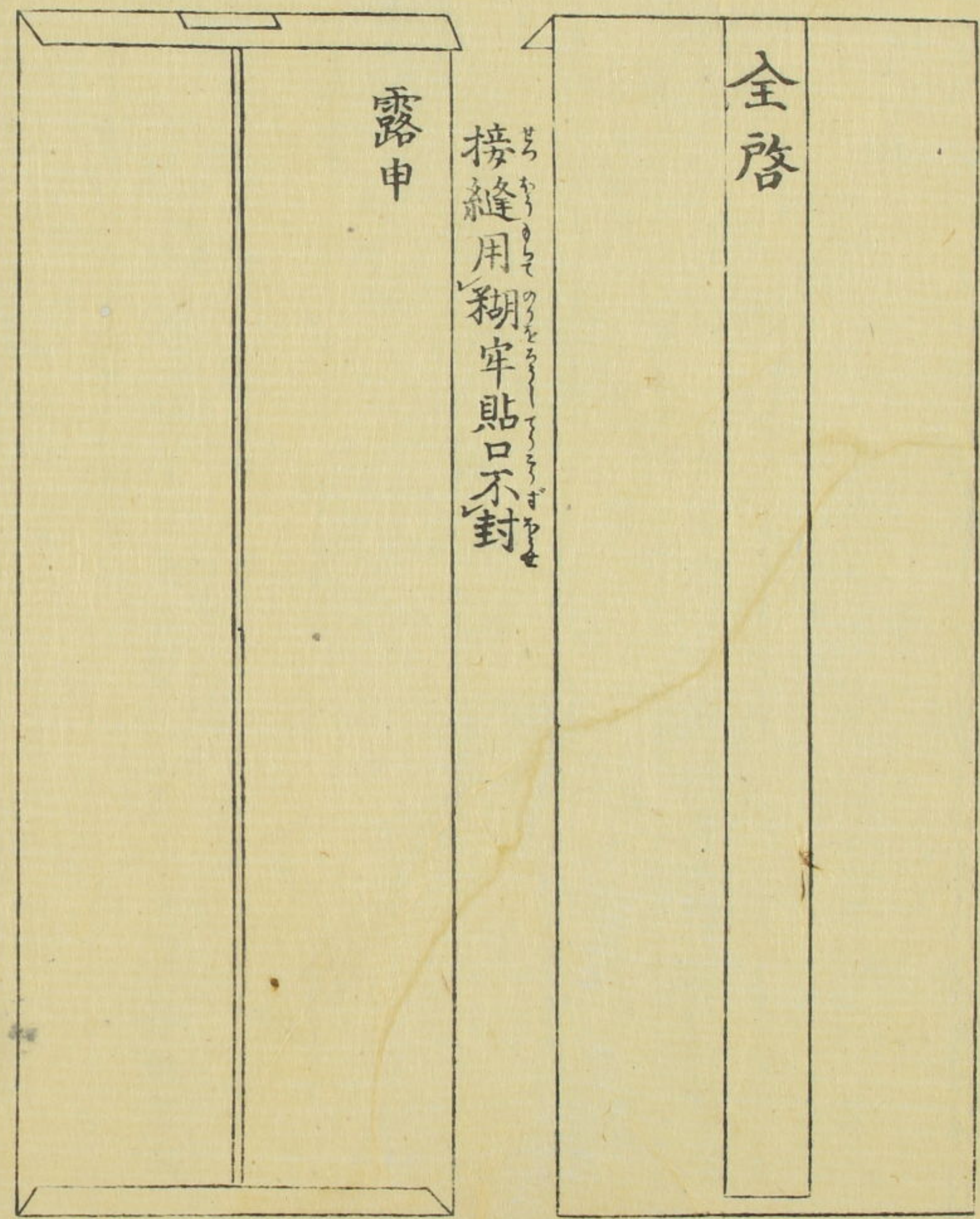
封筒背面式

禮帖封筒用大紅紙正面金簽寫全啓二字

全啓

接縫用糊牢貼口不封

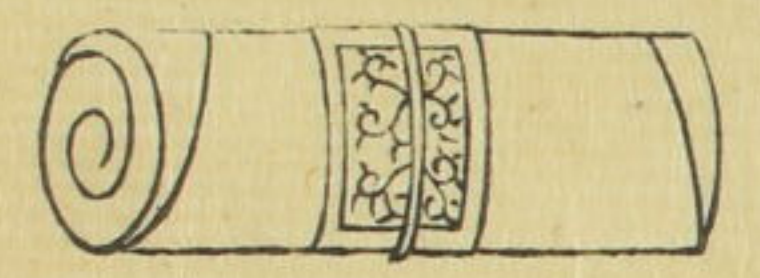
露申



○

又數日過く吉日を撰て送盤送盤とは結納の送り物を奉じ一冊送盒送り物に端物珠玉細工物并戒指此時亦并戒指此時多成送多奉を上算此時とふ此時吉期を撰て女家通是を道日此時とふ此時日取を男の方を通したる時女の方みりつゝ此時えあられ此時ば亦に用意す此時若故障等あはれ外此時み吉日撰て此時た由媒此時の方み相候とふ此時此時女類此時際の髪を切く類此時みへ包頭此時を付け又并此時を此時とふ此時

紗縹



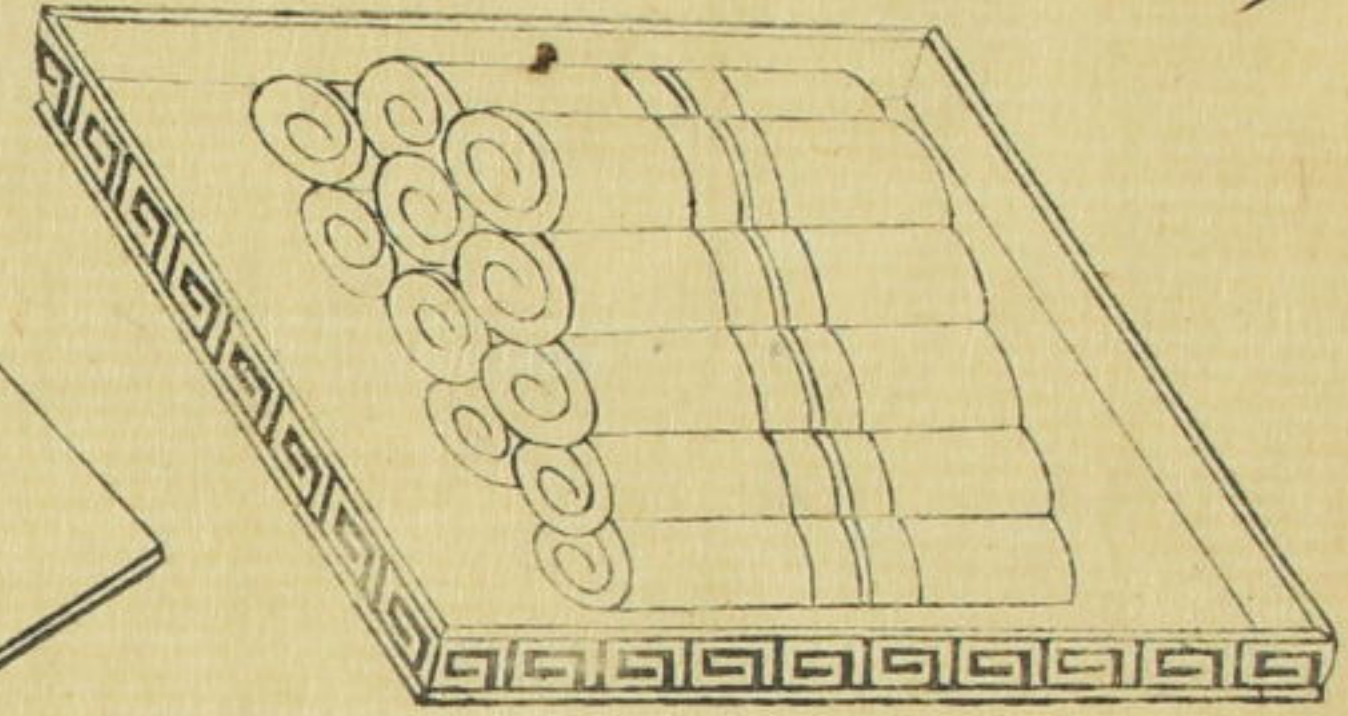
子緞



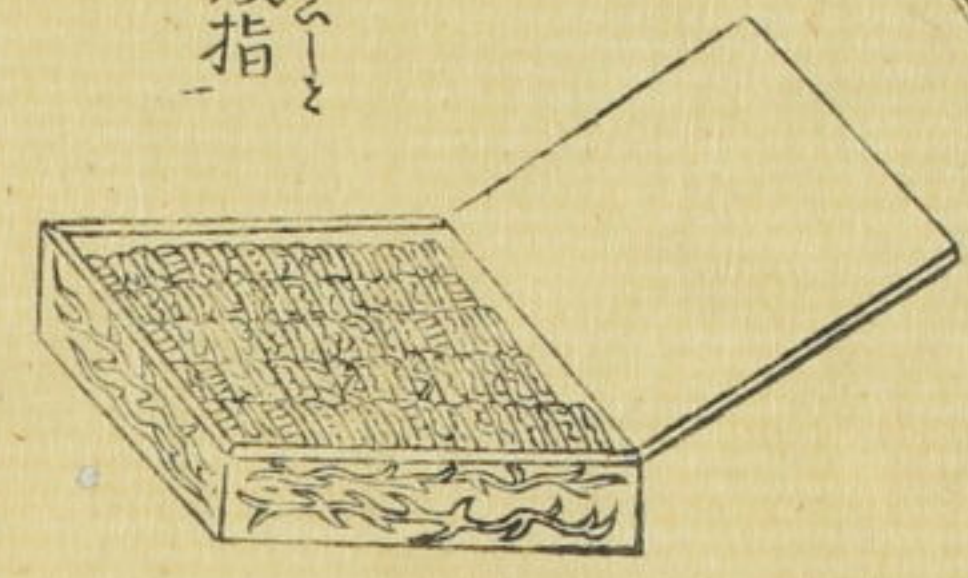
婚礼

四

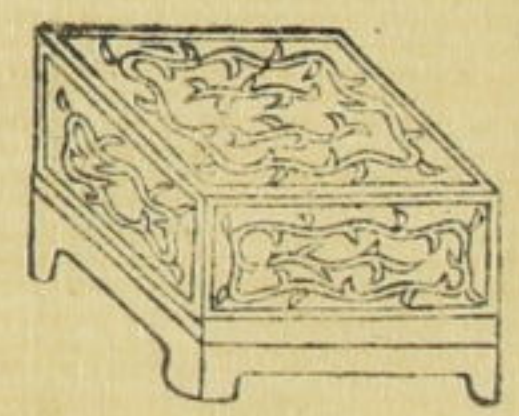
縹紗



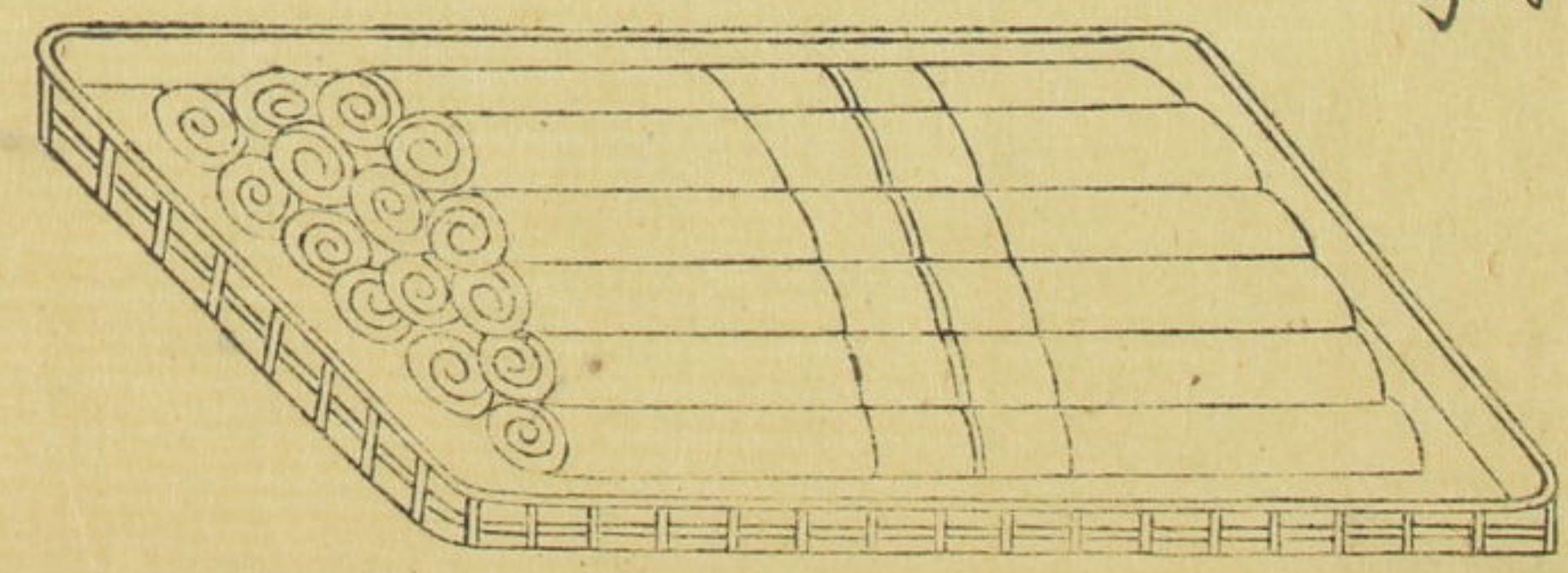
手釧
俗稱戒指



珠玉匣



緞子



○此時書簡目録を誦使を以て女の方みせ及又嫁成類を遣て手書

双方より儀儀やして使の者み銀子成遣す也書簡は父の名よりせ及

父兄者伯叔兄の名めて遣す結納受取後

五日も経て女の方よりも又物と物と珠玉緞匹の類不同あり及物珠玉

の類男家よりと物と物と摸極あとも同物あるのみ見せしめ是を回

帖とて返寄也此時女の八字成遣す○双方の贈答はみく婚禮道具の

用意は女の方み諸及具の用意出きて男の方より通したる婚禮吉物の

三日程の粗査を賜ふ○粗査の目録男の方み使の者持て父男の

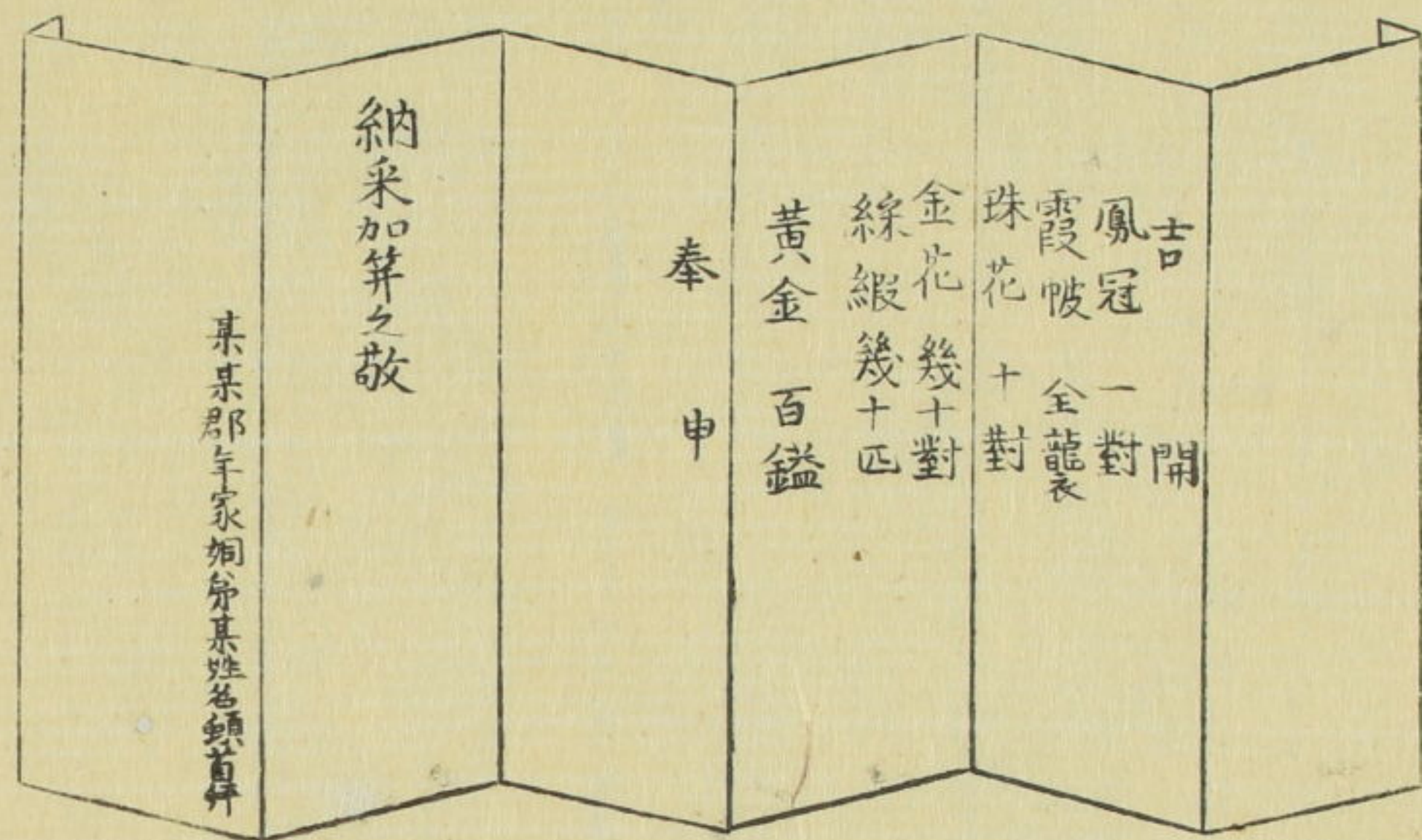
みくは次の者受取せしめ取くは使の者み儀儀成を以嫁入道具の

物甚多しゆかとのみへのせは道具と成兩人みく中擔ひみして人致

多く持運を面目せしめ



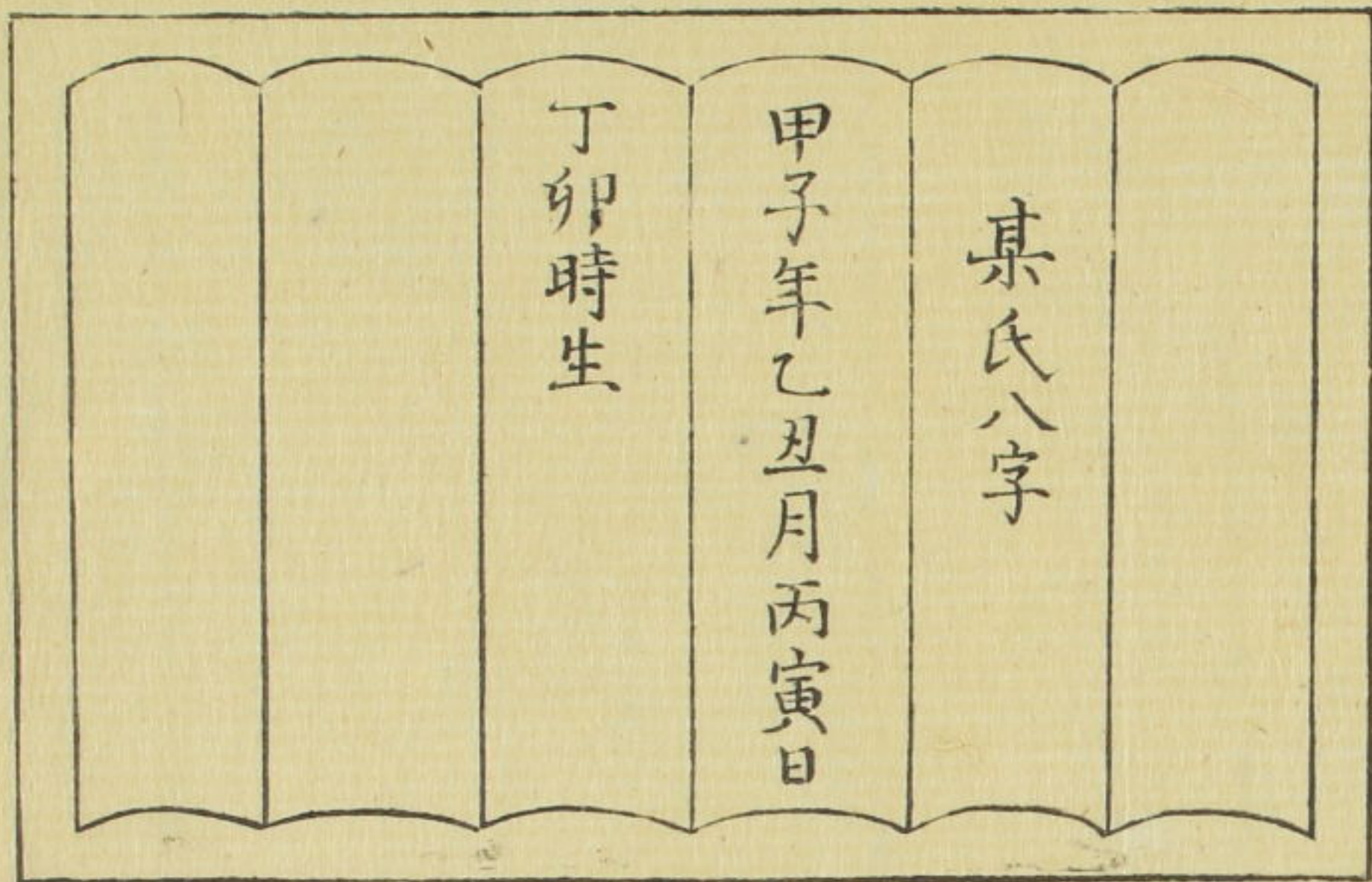
用梅紅全帖第二頁正面寫起每四行或六行不等納采加笄之敬六字用
 金簽寫頁數六頁為率故其物件多則每頁多寫少則少寫出名與帖式同



女家同帖式寫法

吉 開
 朝冠 一品
 袍套 全福
 文房多寶全副
 京靴 成雙

出名與男家同



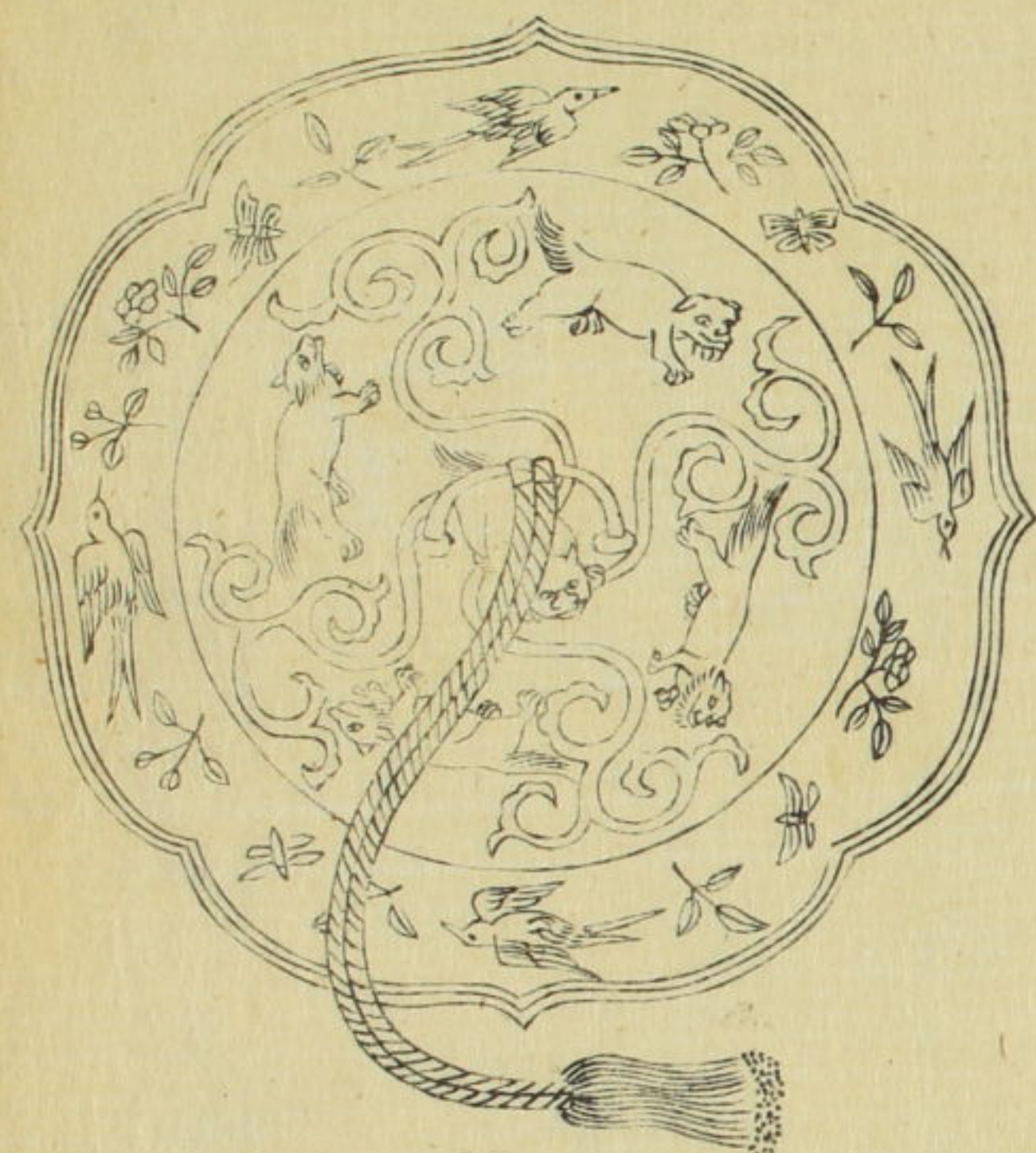
女家送粧奩帖式同前

岳父出名

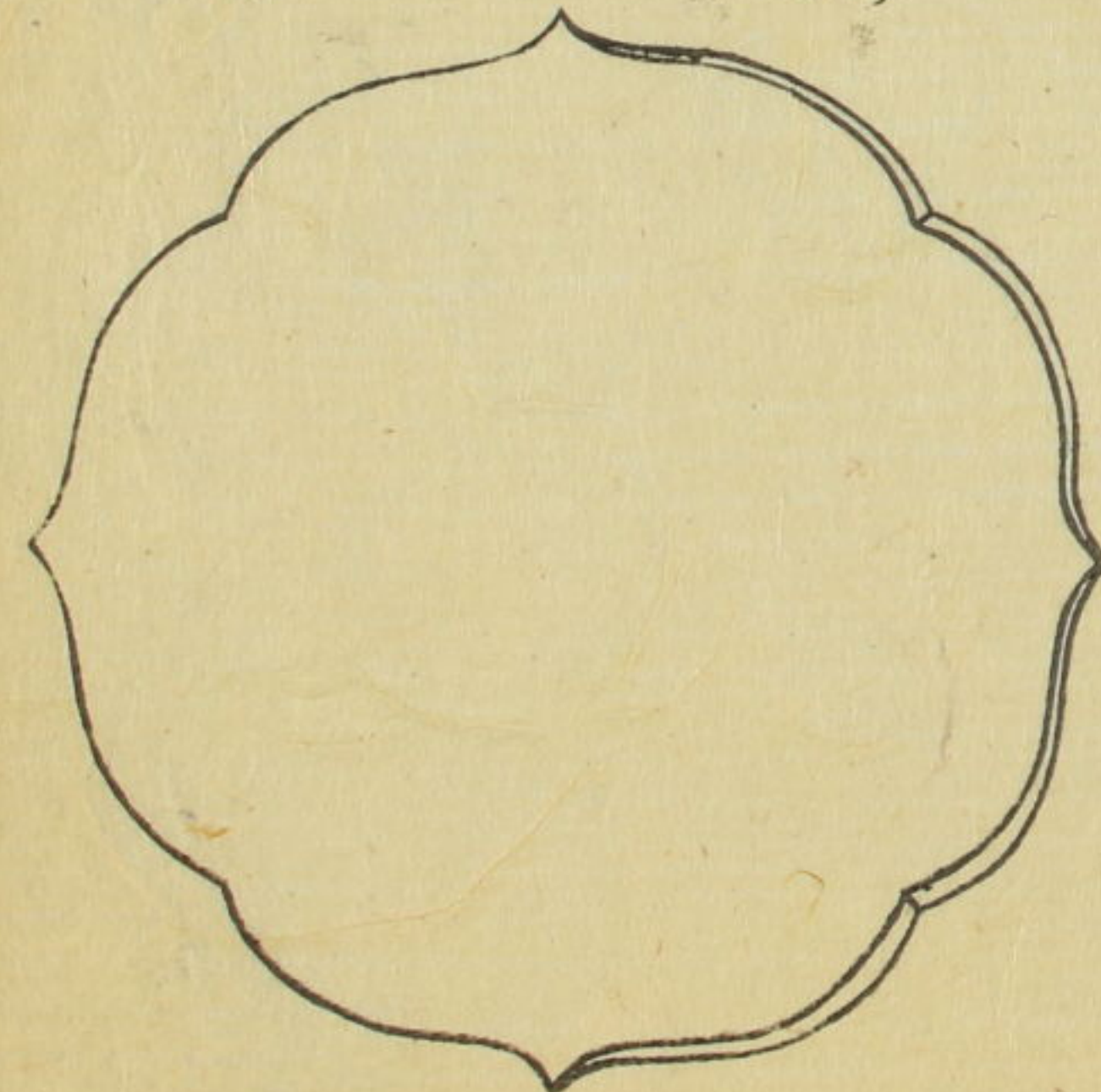
眷生某姓名頭首拜

吉 開
 梳粧臺 全副
 圈椅 滿堂
 立臺 成對
 圓爐 成雙
 衣箱 幾十對
 子孫桶 千代
 慶 餘

鏡子背



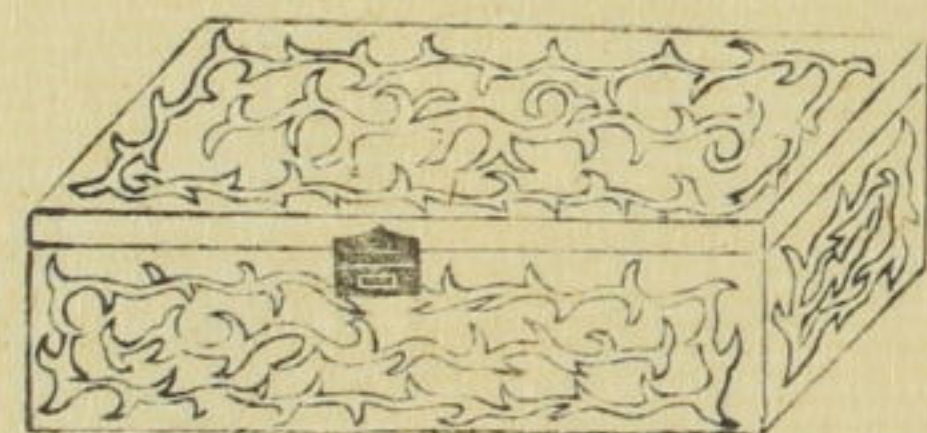
鏡子面



手鐲



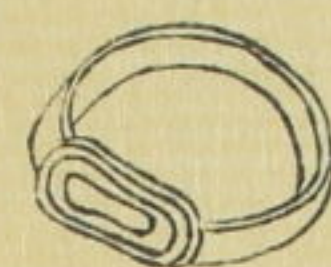
拜盒



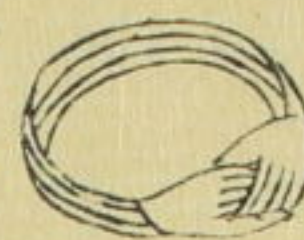
針線匣



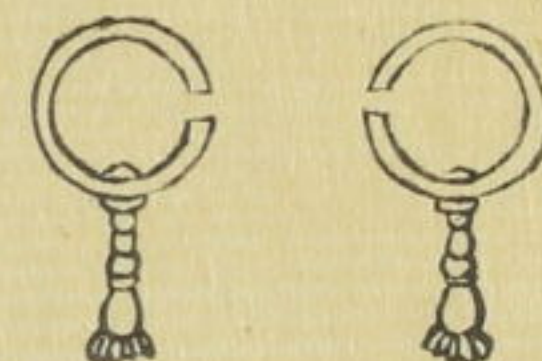
戒指



同心釧



耳環



鈕鈎

男家回謝帖式

謝

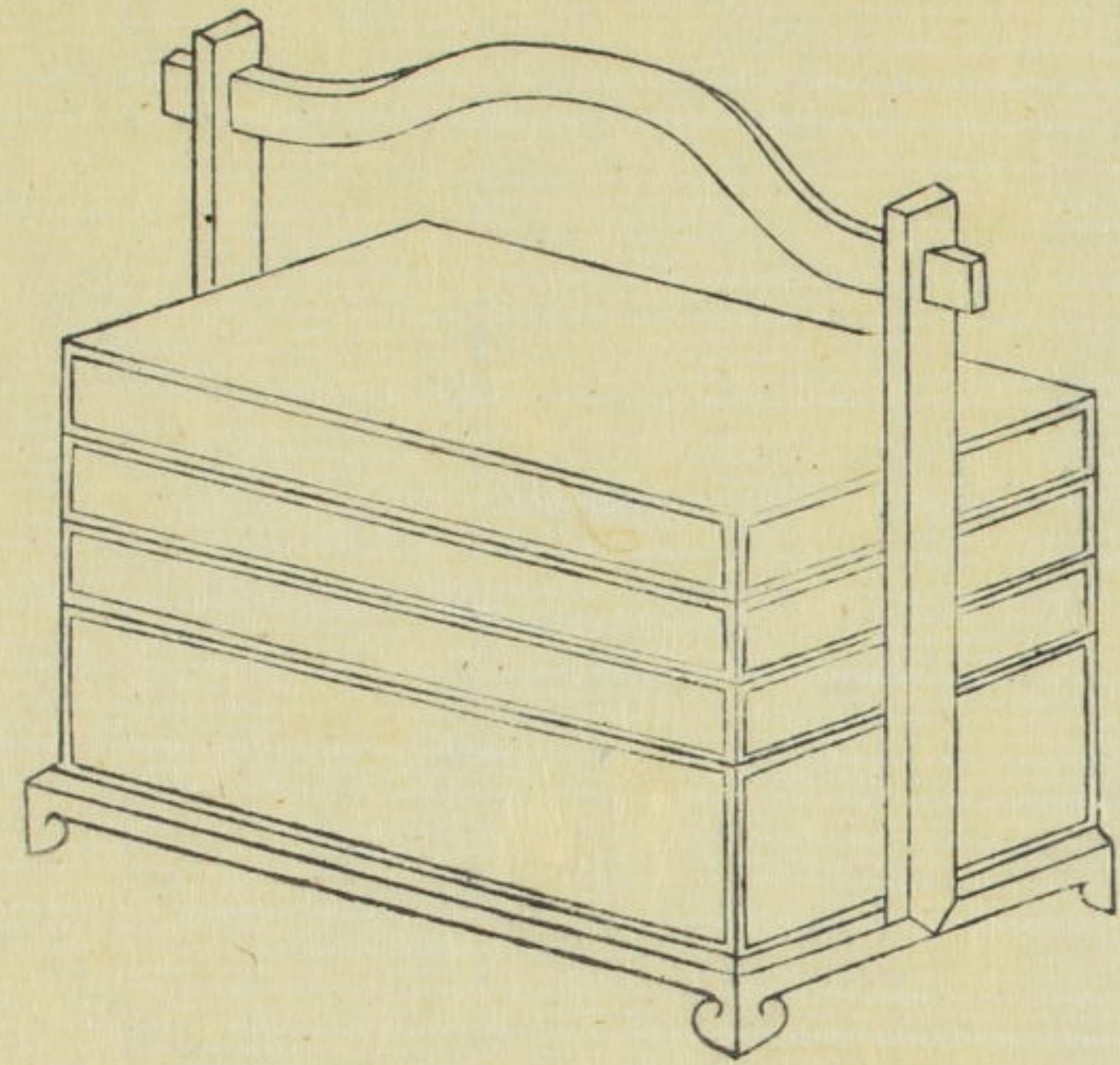
領

領謝二字用金簽

門下子婿某姓名端肅頓首百拜

婚禮

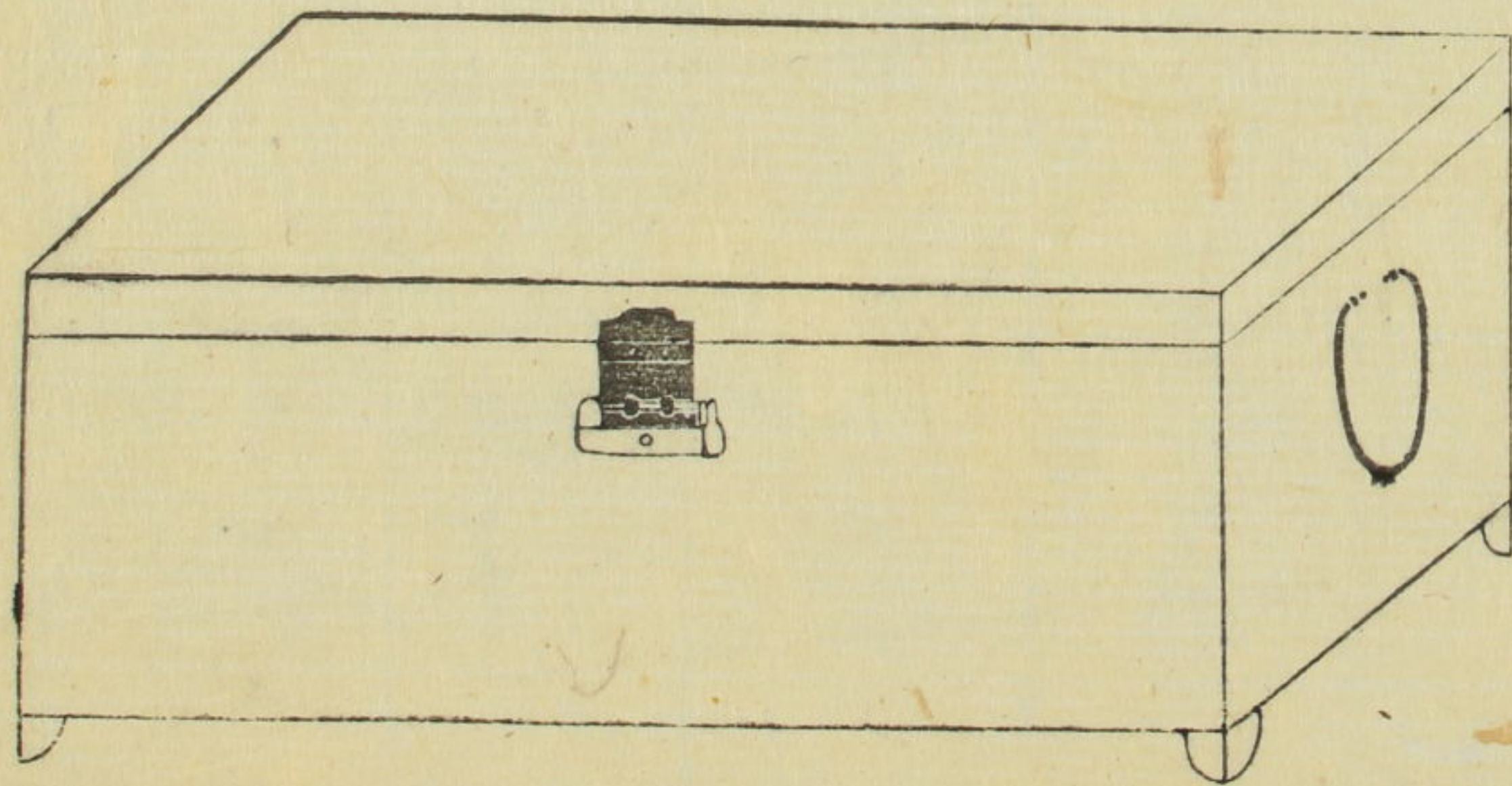
八



櫥
箱

衣
箱

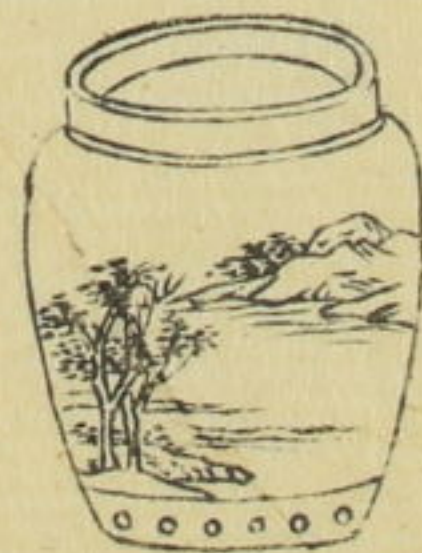
箱
鋪
蓋
一作



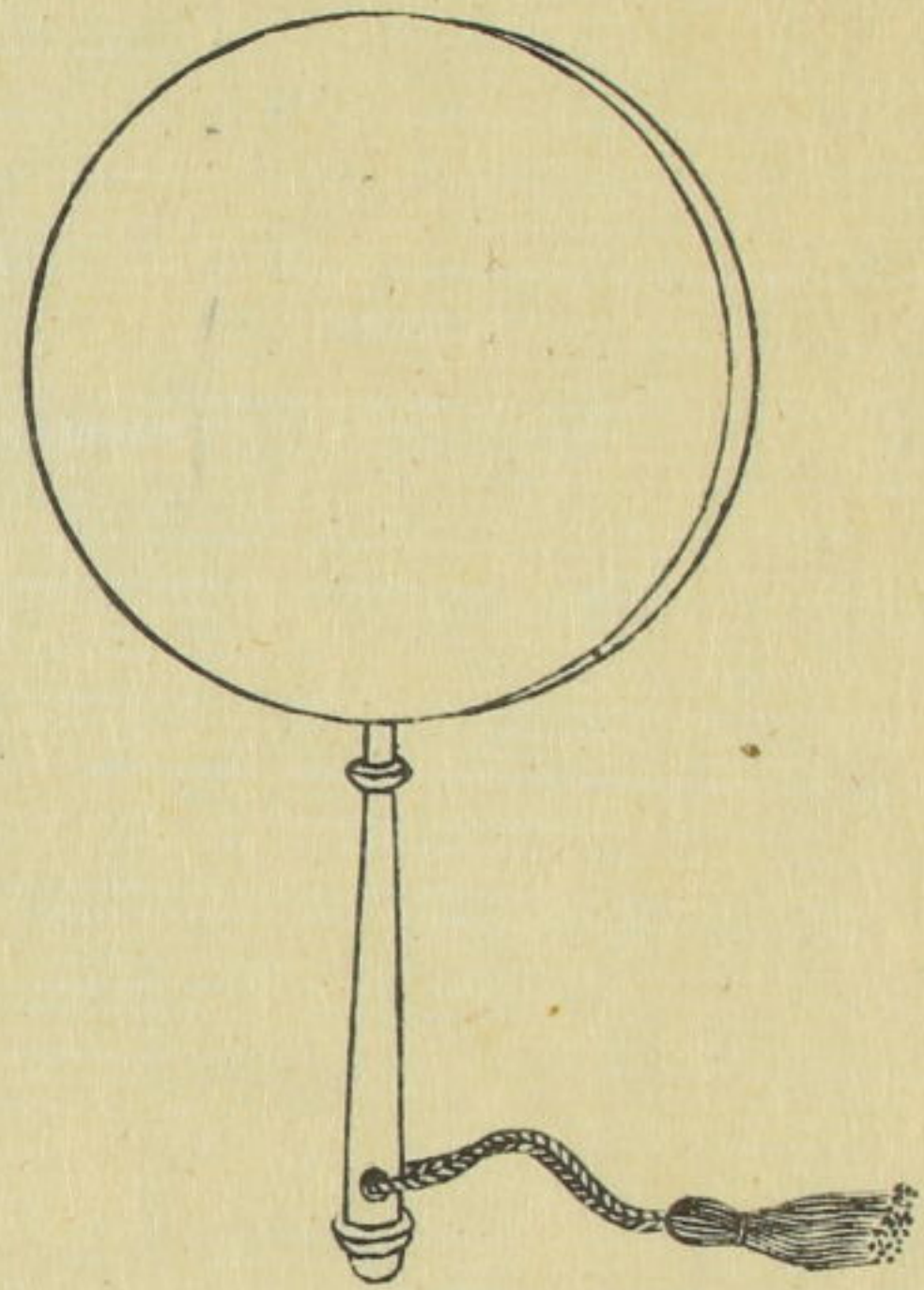
香水
瓶



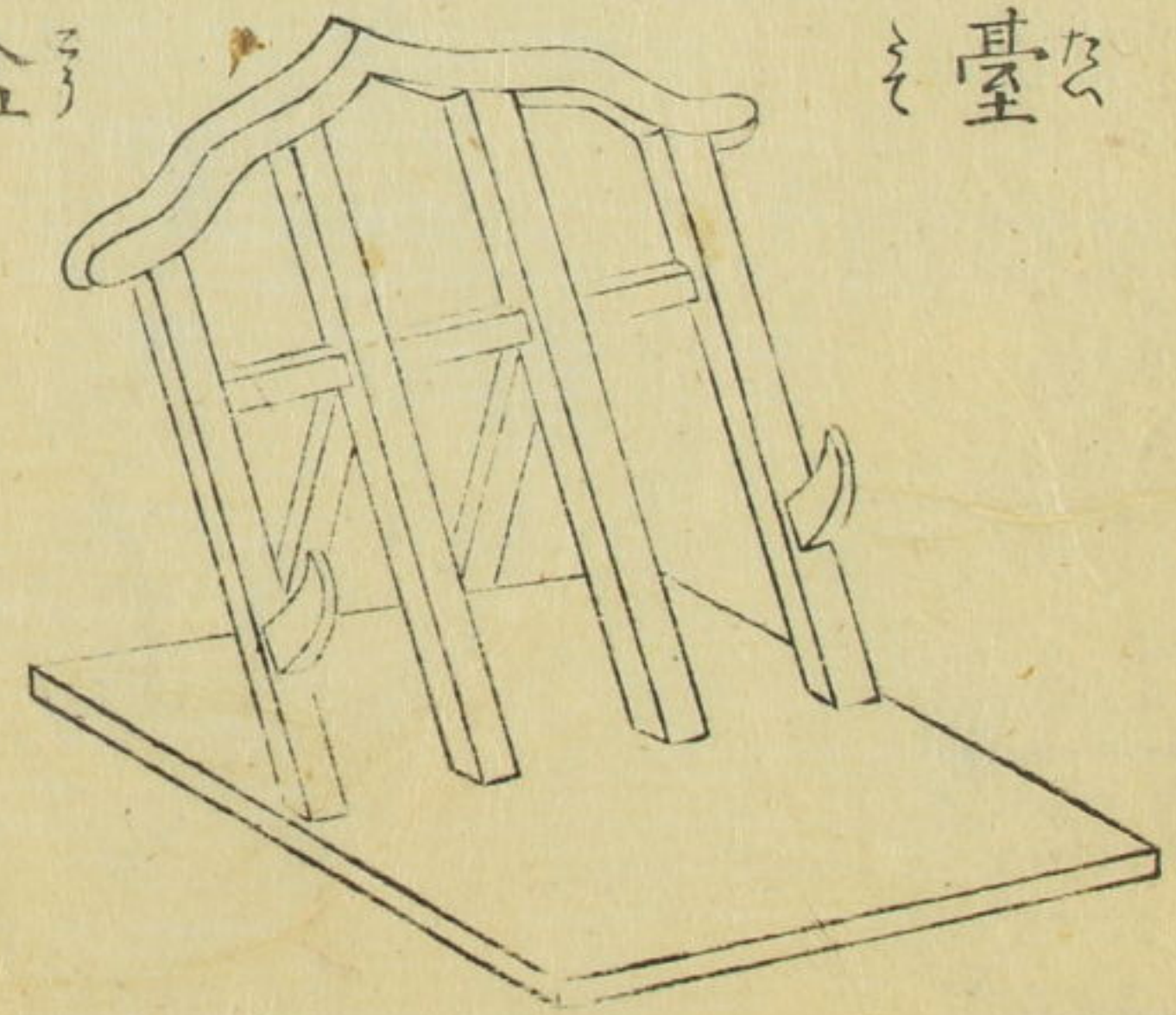
粉
盒



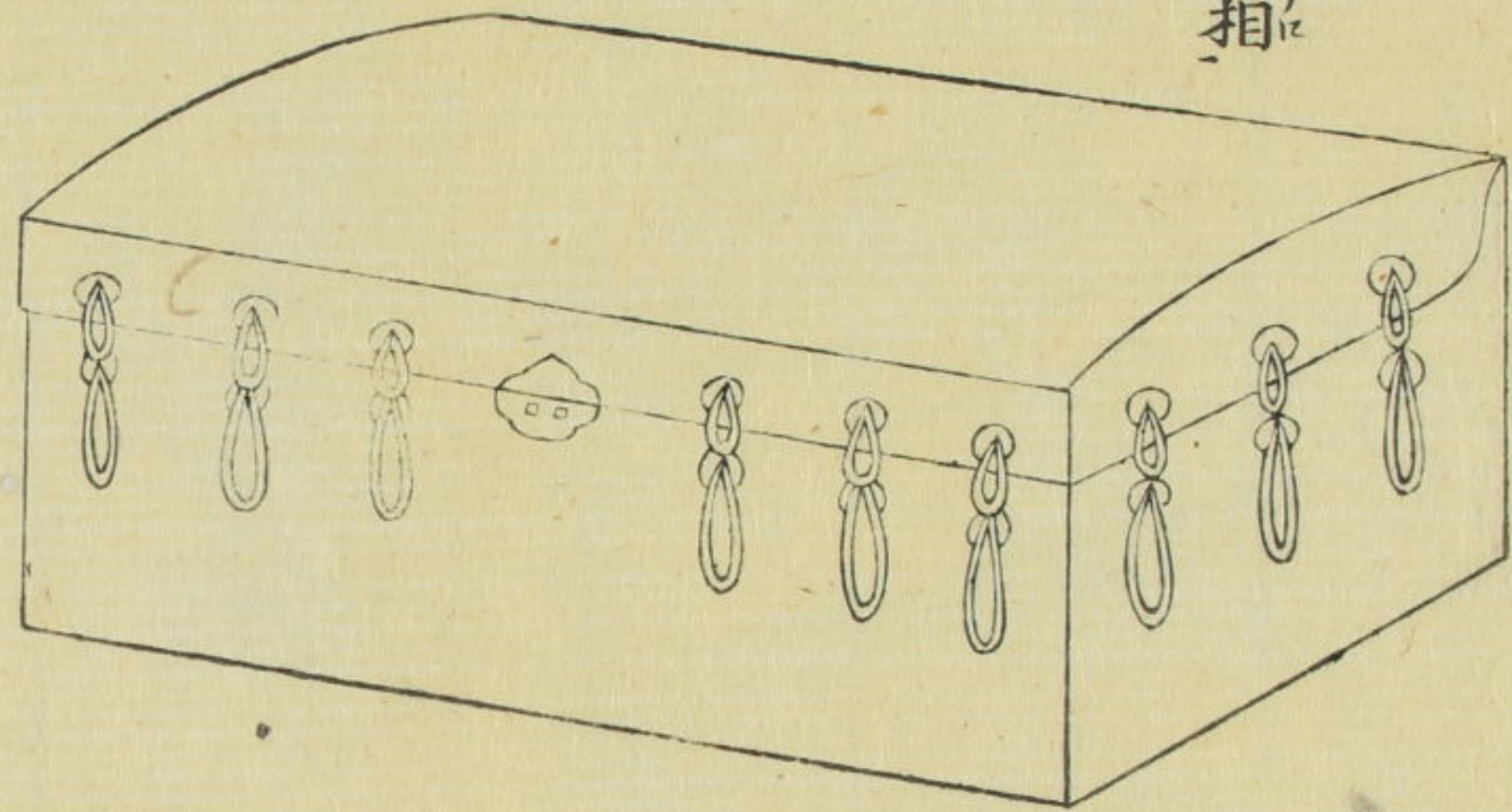
鏡



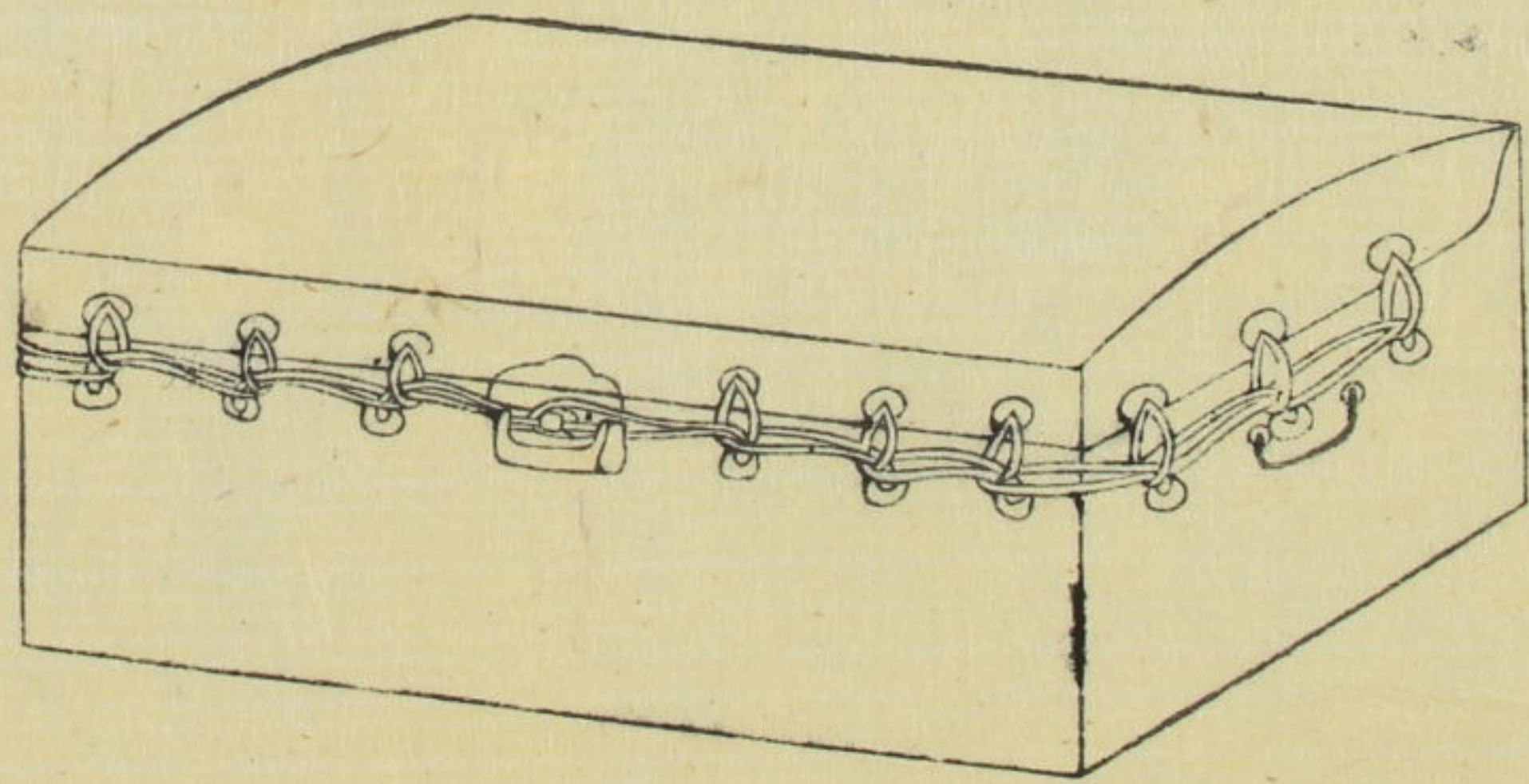
鏡
臺



皮箱
一作衣箱



全上



○

做親の目七時分を媒人男の方みたり用意より同道をへりて壻

衣服を改め用意して

壻の衣服常より三流子生三

花轎 花轎ハ熊子猪綿をぬきき

用意を較之樂人成つて

樂人の法師養者の類ゆく盲人

女の方みゆく是を親迎

壻

此時壻のゆくは媒人むりゆく壻もかき壻の壻

壻親迎の時岳父

の廳上の中央に書置紙敷け壻の戈氣を弑んとて文房四寶を

を文房四寶とて 救之云々等詩の題を書き置紙或ハ文章此題を出し書置紙をぬ

事有詩文の題ハ岳父とて出以又女詩文も志有者ハ女より題を出す事有

○

大戸の家ハ 家口十四五人ハ 媒人ありて男家の媒人の女家みたりす

女家の媒人の男家み面債せど中戸の家以下ハ 家口六七人ハ 家みても

しあられも始途の花途ハ両家の媒人をあうて花途成脚く媒人の

妻とあはる



○婿の轎子女家の大門前キヤウワツウに至るを見れば女家の奴僕婿より儀儀ウツギ求むる為門をウツギ開くウツギて居る此婿婿の下部ウツギより女家の下部ウツギに儀儀を遣し門をウツギ開く人々門をウツギ開くは婿婿の轎子門内ウツギに通すウツギ 以後儀家の貧富によりて 五十目百目二百目等々 ○此夜婿の方より女家より三度の書翰を以て初度ウツギに迎ふ轎子キヤウワツウをすらすら書翰二度目ウツギに交度ありたりと云書翰三度目ウツギに合キ色の近キ致遣キせし書翰あり女の家半町程も之れを媒人の懐中ウツギより初度の書翰を出し拜匣ウツギに入し使の者ウツギを持せつかりせば女家より後得く主人門前ウツギに迎ひぬ也

式帖道一第

式帖道二第

男家迎娶三帖式用大紅全帖絲輿恭迎四字用金簽父或族長出召

絲輿恭某郡年家桑桐身某姓某名端肅頓首拜

迎

速粧二字用金簽

速同前

粧

式帖道三第

恭迎合奩四字用金簽

恭迎同前

合奩

○女家の少手前母々媒人も婿も轎子より出て門前まで至ると主人出迎

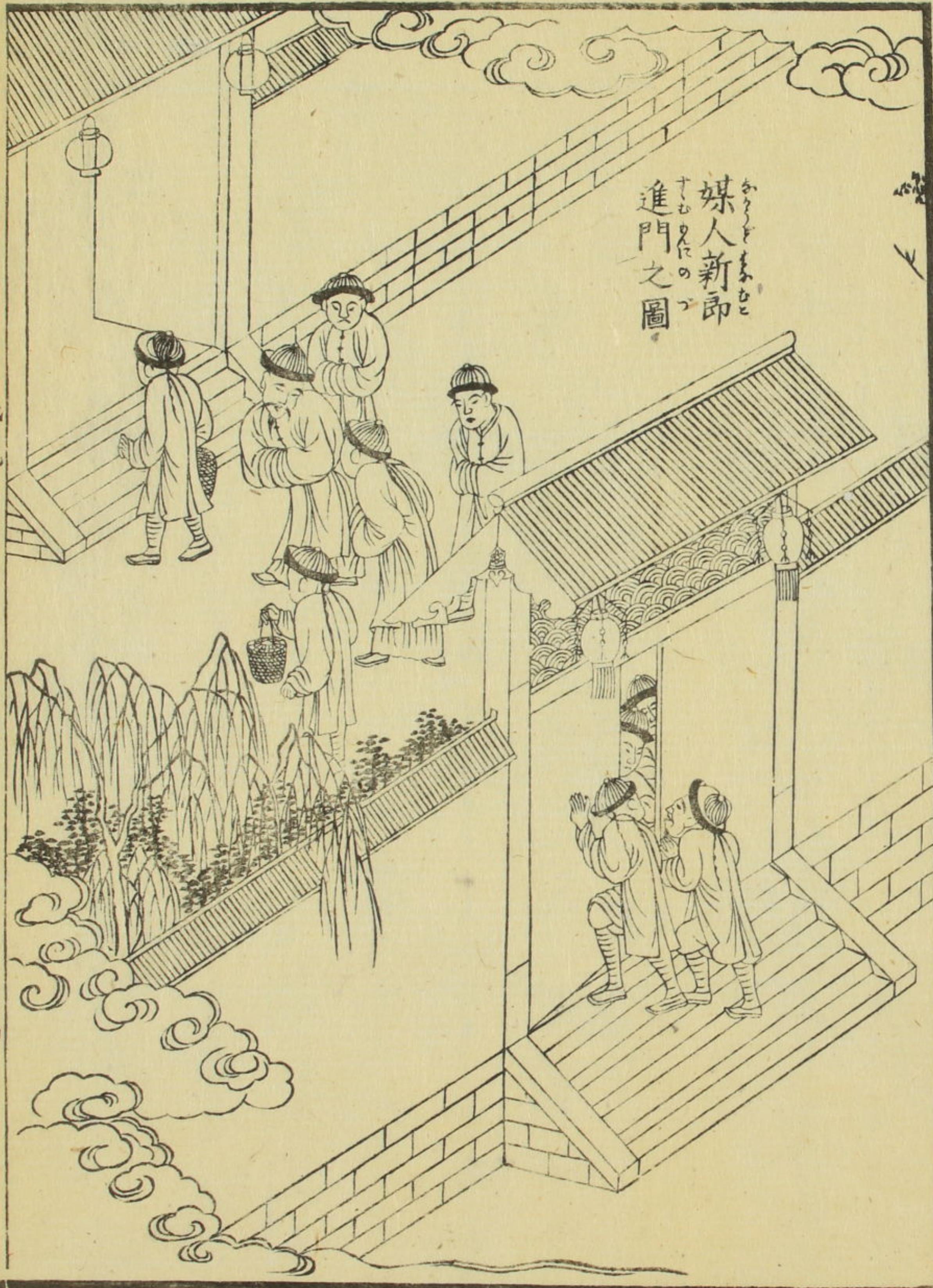
廳堂一母外案内にて請上坐と云々手紙掛く挨拶以媒人も今日甚小喜

と會叙寸主人より且請坐と云々ハ媒人手紙掛く得罪と云々掃子母

坐と婿ハ始終媒人の跡み引添く諸事媒人の指圖も任す

○花轎ハ新娘の内房内房ハ女口入内房ハ女と云々樂人の真の一同お扱ハさむ

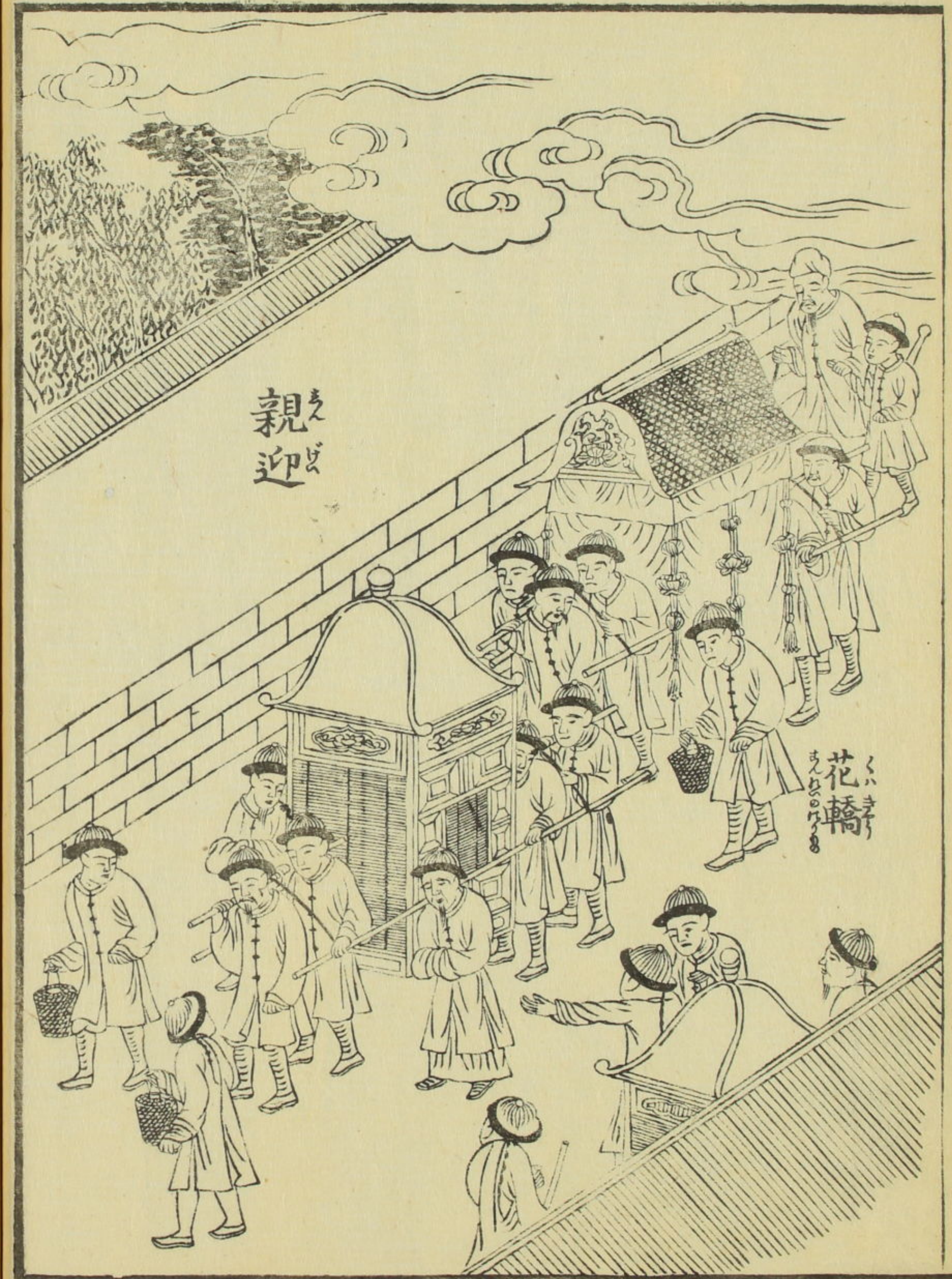
婚禮



媒人新郎
進門之圖

婚札

十四



親迎

花轎

○男家の門前みへ人を出入りせしむるは娘のまゝ成例せむ媒人の使身見へまふ内へ
ら子内みも用意して主人媒人の通して門際をきくを措くは媒人轎
子より下りて主人の形ふまゝ主人の勞加とて媒人豈敢とて言主人先みま
肉して廳堂みおと主人の請上堅とて媒人不取當とて言主人再意請
堅とてハ媒人得罪とて椅子み守此時主人婿内み入る其
間み新娘の轎子來れば傍娘類 新娘を轎子より下り廳堂の口より傍
娘等両方より手引く媒人の次み主人養娘等傍み付流養娘ハ死
娘の衣裳衣下に披風袂衣とて格常の衣服を着し上み大紅の圓領とて
上着成着し次み頭面覆とて紅の被中物成着し ○媒人より内み
婿を伴ひ廳堂み出ると花娘を新郎み相見せしむ此時親戚の内幼
年の者より又ハ奴僕の内みく二人一對の燭臺み金銀めて色々の茶碗を西

より大なる紅蠟燭を立主人左右み並み持出て新人二人の形み成
花燭とて新娘婿み向ひ礼儀をせれば婿終りて椅子み座す新娘ハ椅子
坐せむ ○新人相見身より主人父母父母廳堂み上り椅子み着し新人二人並びて
天地を拜し次ハ家廟を拜し次ハ父母を拜す新人二人を傍娘類とも
案内して房中み入此孫み母ハ廳堂をまゝ内廳に入ふ父ハ媒人系びみ親類客
み請寛と挨拶して内廳み入る外廳の客あはく坐定ると終落みねハ奴僕
茶を持出て媒人み先次ハ相伴の客あはく茶成出し茶終りて桂圓
湯扁豆湯木酪の類を出し菓子を出し酒宴を始む主人ハ媒人の名を取
る酒を斟みおしにらぎ奉敬一盃種々費心多勞々々と挨拶して其外の客も
衆位相煩奉陪請寛暢飲と挨拶して酒成りて ○新娘を先み房中
み入るは新郎み入るは養娘とて相公請坐とて新郎床の縁み

婚礼

女婦送^{おんなのむすめ}出^{だす}
内房之圖^{うちむらじのず}

婚^{よめい}礼^{れい}

十八



新^{あたら}人^{しん}
花^{はな}轎^こ



腰を掛ふ此は傍娘新娘を伴ひ同床小坐りし傍娘合色玉を持出く二ッ
み割く手にもち髪等酒瓶の酒を注ぐその色はほそもく色に
移し合せし新人二人み一時みたりは是を合色と云ふ
合色平て姑々花娘の頭面覆をさる圓領を脱せ天青色の
色やく男子の手に振す幸徳は先祝物も天子よき
たぬりうも幸ら止ハ庶人と云ふも是すも夏を注ぐ
顔の婦女姉妹の顔はみりて落して盃事あり新娘と合色傍娘
養娘も合色に○外廳の媒人其外の客酒宴は更みつるも眞酌あらは
官家下部の内年より云ふ 氏みく張ぬきに去りしと云ふ獅子を持出く廳堂のま
みり居るに衆客酒宴みりて獅子はをとり足踏をなして路へ分取
みり終り○婿の外廳の客み陪坐せ天地土廟拜して婿の臥房み入る羽立朝
の酒席み陪坐し其夜陪坐せし酒宴翌朝までみおふ羽立日の樂人も盛ん

敬も言はるる花娘を外廳の上座み座せしめ父母並に親類朋友も並み
高き音樂舞踏して其日れ夕るに卓子をとりて上座を回すを十六夜と云ふ
四のちね系物小菓物山海の味を 四十づつと云ふ花娘多くは房中み入る外廳
つみきふら撒美盤と云ふ ぬき夜み入る傍娘と花娘は衣服改定をせ膳房み入る此日の音小
里もも燭臺み燭燭を點どかりぬきおた夜み入る酒席をむす 廿二日目也
○廿三日目みと花娘早くねて父母の居同みゆきと拜しと房中み入る婿も
とやくねきと云度し父母を拜し房中み入る新人二人同卓みく朝飯を吃
此日より親類朋友都来道喜し親類朋友より慶賀貝此物云々何事も
謝帖を修する也使の者み賞封をもらは 婿礼の日より送ふも
婿儀漸く三日目ありハ五日目程小婿の方より請帖をぬく外父母を招
請はふ来あるを進門と云ふ 請帖ハ父の名をぬくハ 此日酒宴をりふ
外母み母と帖をぬく

婿礼



婚札

鼓樂

唱道

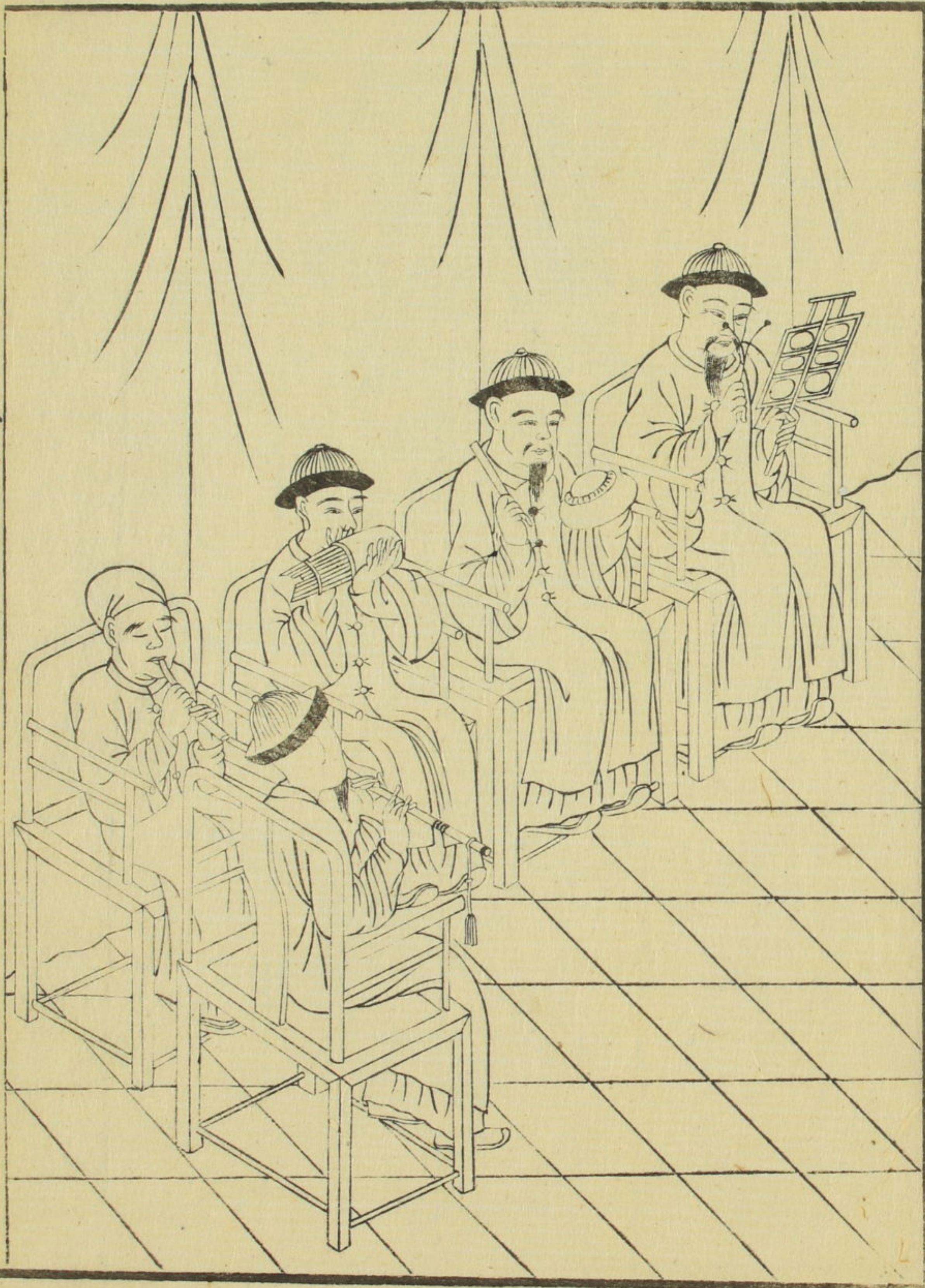
紅燈

執事

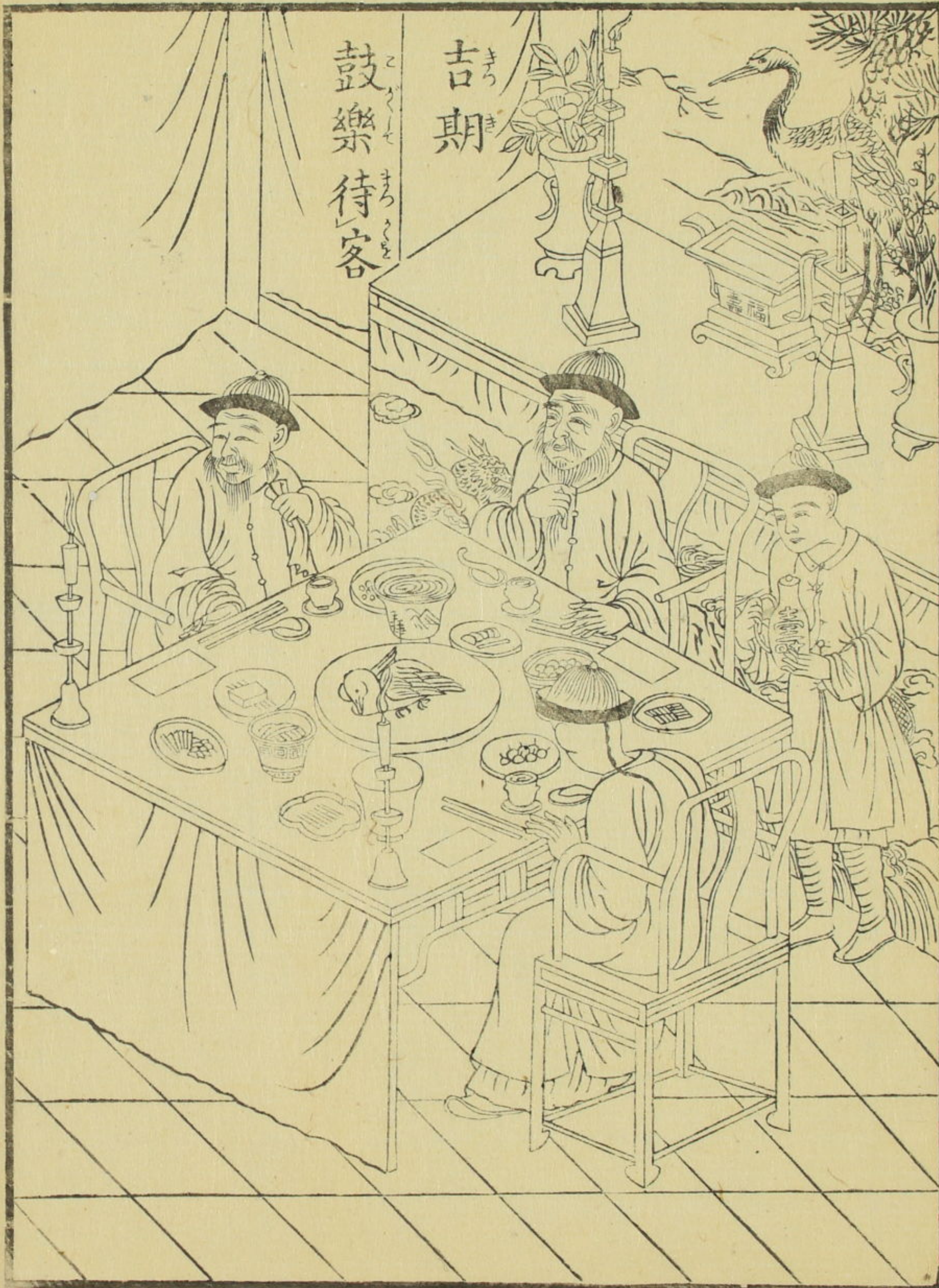
二十



親迎
歸路
行位



吉期
鼓樂待客

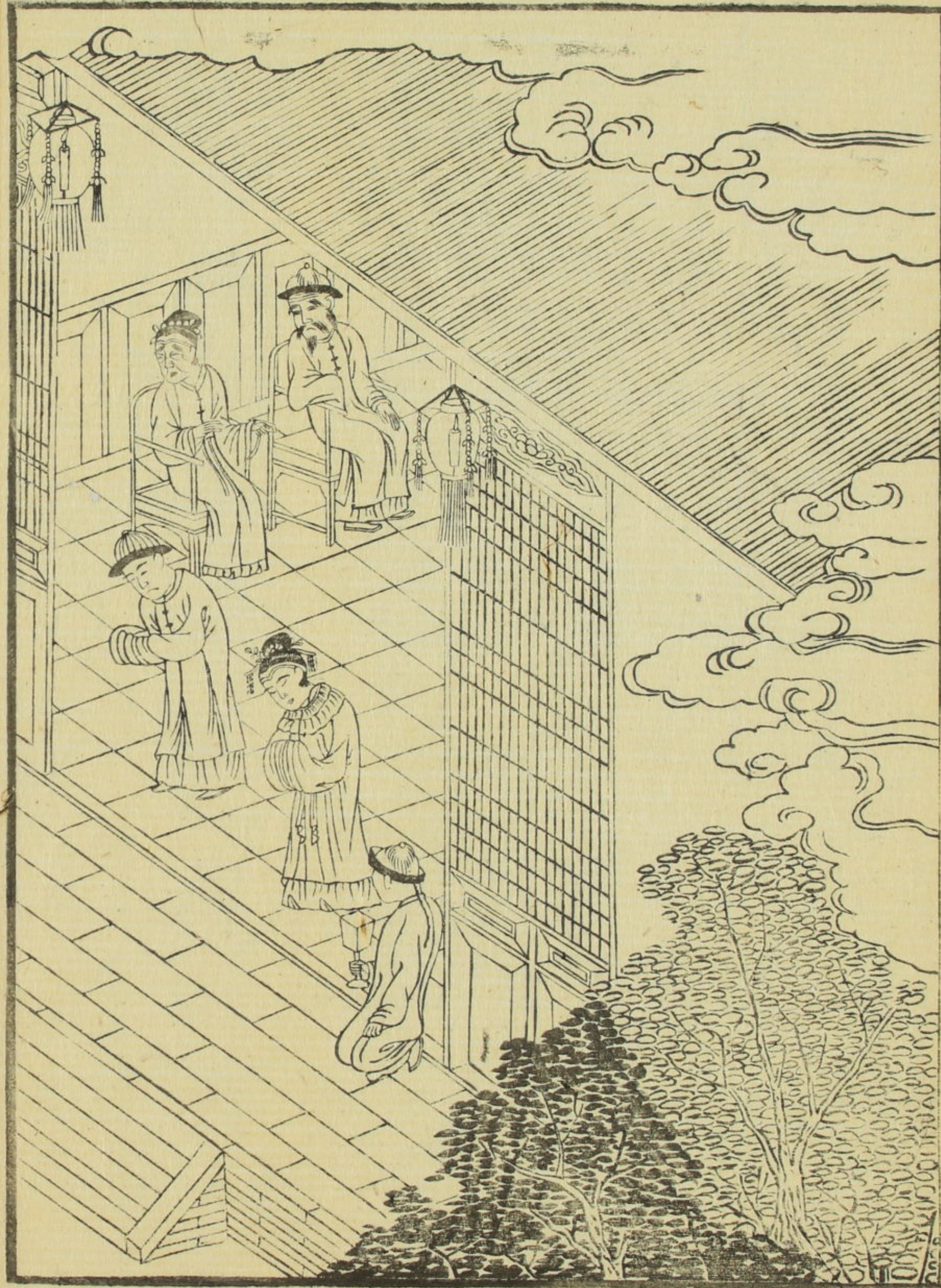


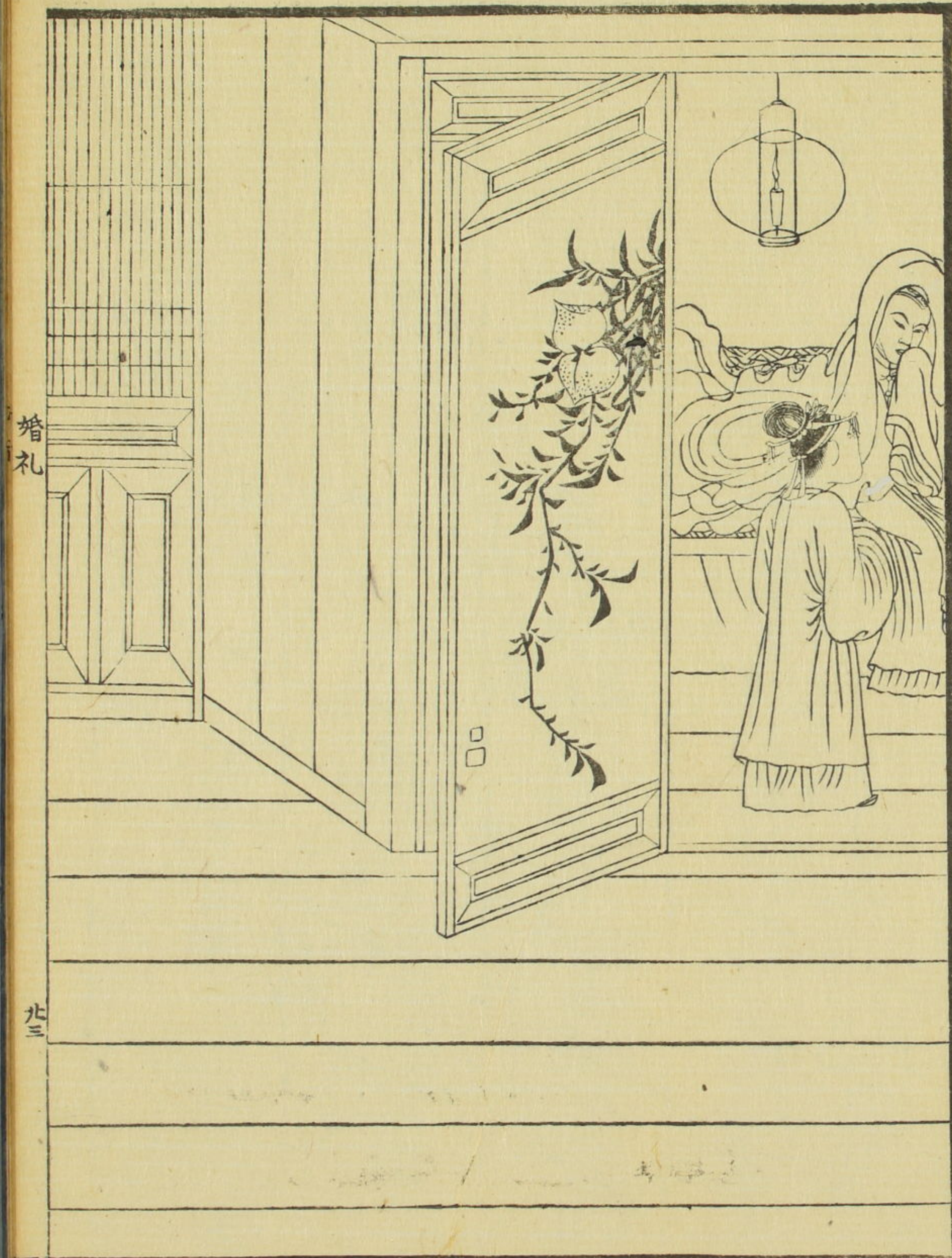


新あらた人ひと拜まがら
 天あめ地ち

禮らい

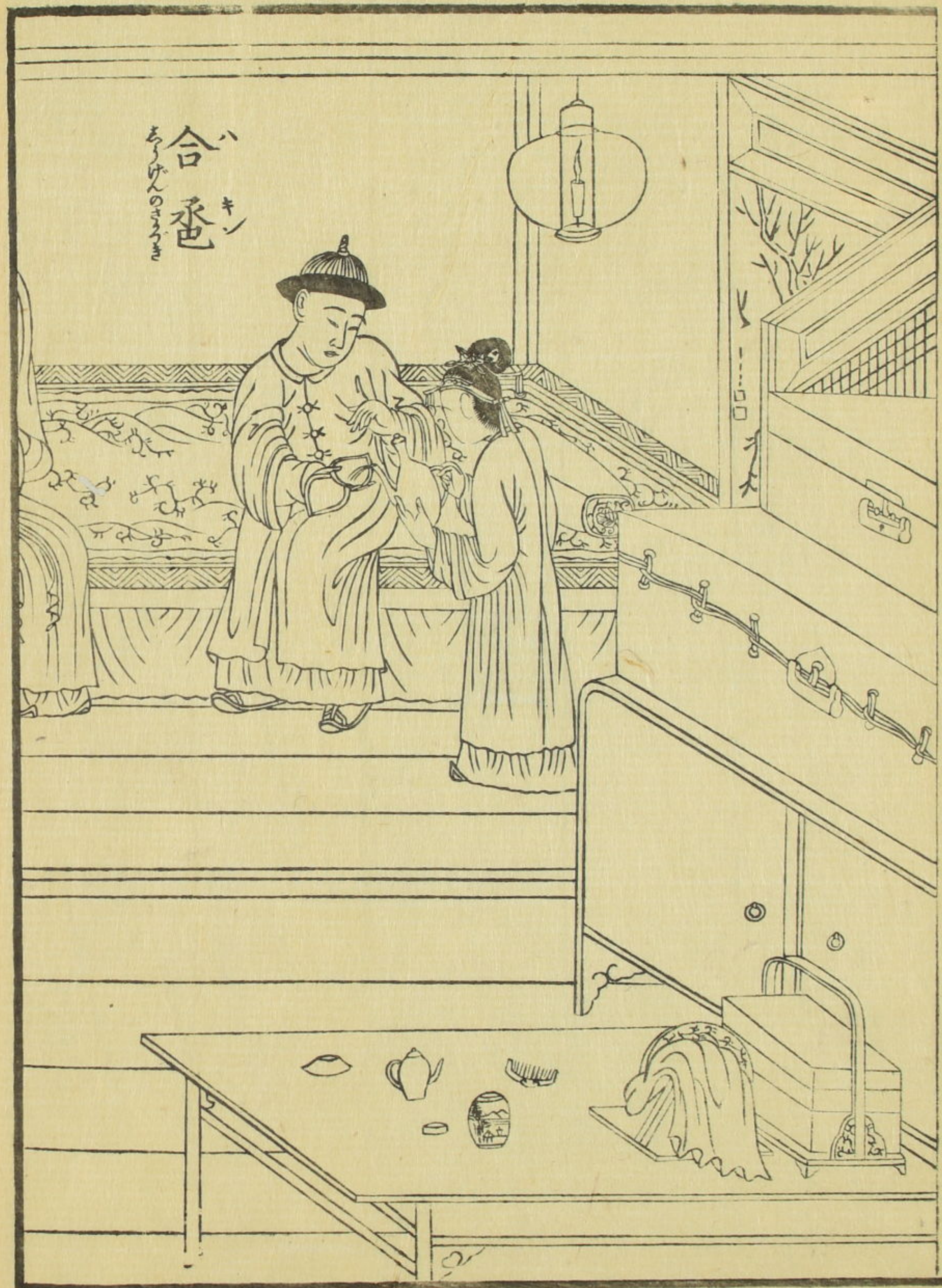
三





婚礼

九三



ハ
合
蚕
キ
ン
あしはのきりき



親類朋友めと素肉して郷良應す又樂人等を呼ばく外父外母暮茶とて

出宅にき路あるハ轎子を用ひ近道かれハ歩行を外母ハ近道ありとも轎子を

用也花娘の兄姉姉妹を打連く婿のくハ一同小あふ女ハ皆轎子をりらゆ

○婿の門茶めと下駄の者うかハ外父外母此れ其内みあくと主人並り

婿も廳堂のには門限と出むひを措き主人より敢勞移玉とて

客豈敢々々と答ふ主人案内して廳上みあふ堂客オノノカ養娘の類

ゆく廳上あて迎へあつくと客挨拶を其向ふ養娘の類花娘を伴ひゆく堂

客み挨拶して内廳み伴ひゆく○主人も外父小舅客み挨拶して椅子に

坐せし婿ハ下座のうに身を措くオノノカ期の附のよ

○内廳みハ花娘の兄姉此妻女も姉妹もも卓子を出し餐應す相伴る

婿の姉妹も兄姉此妻女もゆくホヒツ陪坐す母も外母酒を勸むオノノカ吉朝とい

○酒宴深更おぼえんで客を接致せしむ主人も程合を見合々席を納

○進門をめぐり教日とて舅れとて婿を招請する事あり此時新娘も伴

ひりぎを廻門とふ此方の里むとてあふ ○婿舅方此門お入らば舅父廳堂

口お出むらひ案内を婿廳堂におく下座のわらわを扱くおふ人請坐

とて婿辭讓して不敢とて坐せし人連々請坐々々我も要坐せ

とて婿得罪とておふ人まぐ主席にお坐せ婿も坐し親戚朋友お出さ

婿お對面を婿とて遠く辭讓して請坐々々とお皆一同お椅子に坐す

○花娘の轎子に侍りお内廳口まで歸さむ轎子より入りて養娘おど付

多廳お入ふ ○内廳お入嫁の女をけし免姉妹姑の顔までを相伴して嫁

食應に父を折くありて酒を初む外廳の酒宴お内廳も見合せて

酒宴を収む婿とてお人お挨拶して廳を入り其の内廳もとて嫁も

姉妹も辭儀して外廳お出さむと外廳口におく轎子に坐り養娘おど付

そして門をおふ ○婿婿の後一月程もとて嫁親里お帰す事あり

此時人事として只贈物あり藥物時新の物或は火腿の類等 親里お一月程も逗留

迎へて歸ふ此は舅の方よりおとせり物あり古の帰寧の遺物

○舅の方より娘お逢ふ此時ハ奴僕を以て中遣せし嫁とて公姑お入り

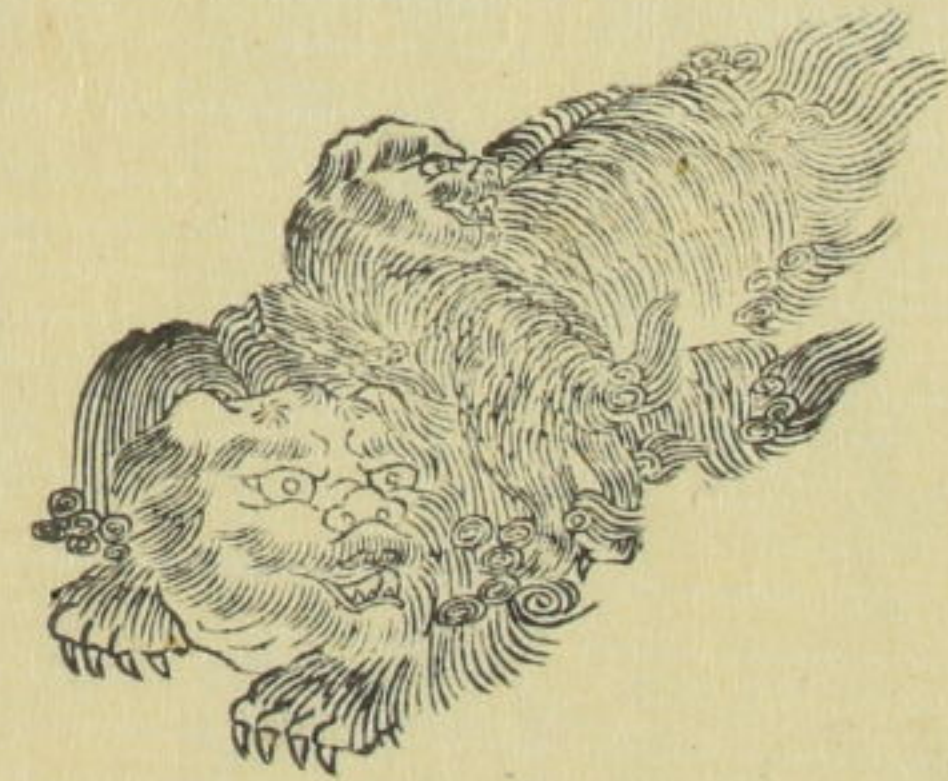
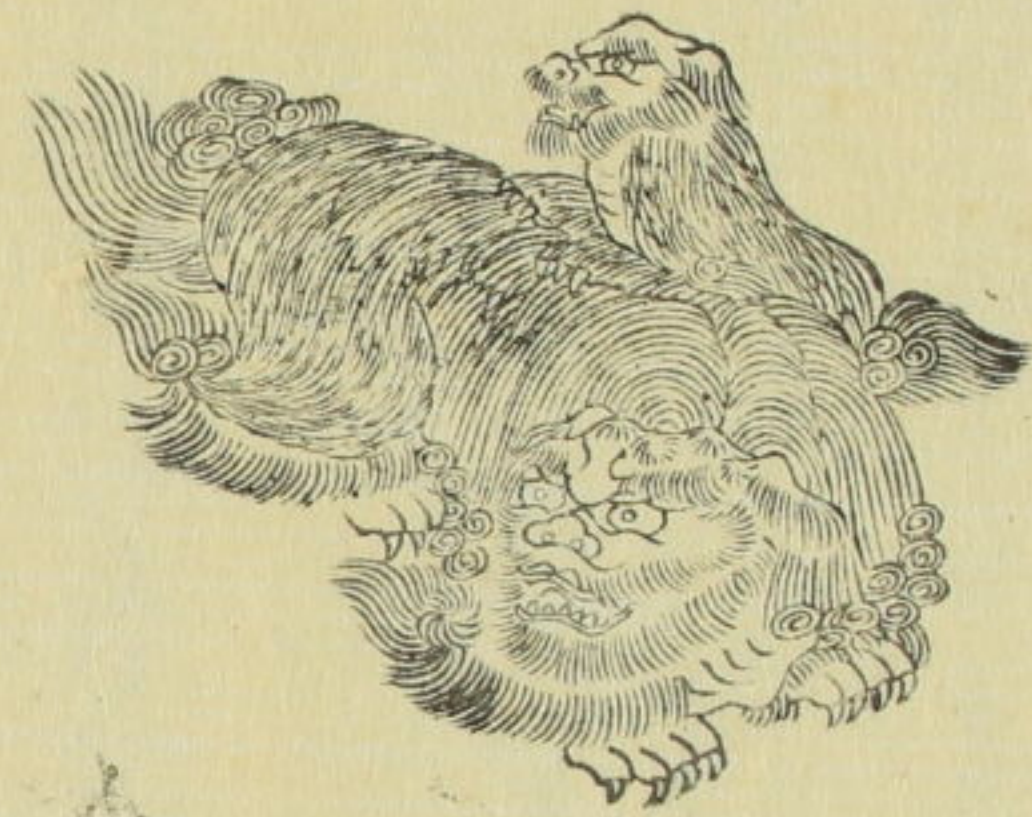
かひ其のちまお伺ひ候はれしお入らばとて目取をいれお入らば

の方お返事して其日にありて公姑おまお入らばをいれお入らば親親朋

友より花娘お招請する事あり 翌年の正月におあはれしお入らば

はあてにす候と候と嫁をいれお入らば

紙獅子



清俗紀聞卷之八

